

正しく塗って、しっかり効く！

アース製薬では、世界中の全ての人の健康を願い、虫が媒介する感染症予防のために、虫よけ剤の正しい使い方を知っていただく活動に力を入れています。



**虫よけ剤の正しい使い方**

① 腕、足など露出部分に約15cm離してから噴霧する。

② 塗りムラのないように伸ばして塗り広げる。

③ 顔、首筋には手のひらに噴霧してから、ムラができないように塗る。  
※汗で流れるので適宜塗り直す

**塗りムラなくしっかり塗ることが大事！**

ディート(有効成分) 肌

塗りムラがないとき  
成分で肌が覆われているため虫が肌を感知できない

ディート(有効成分) 肌

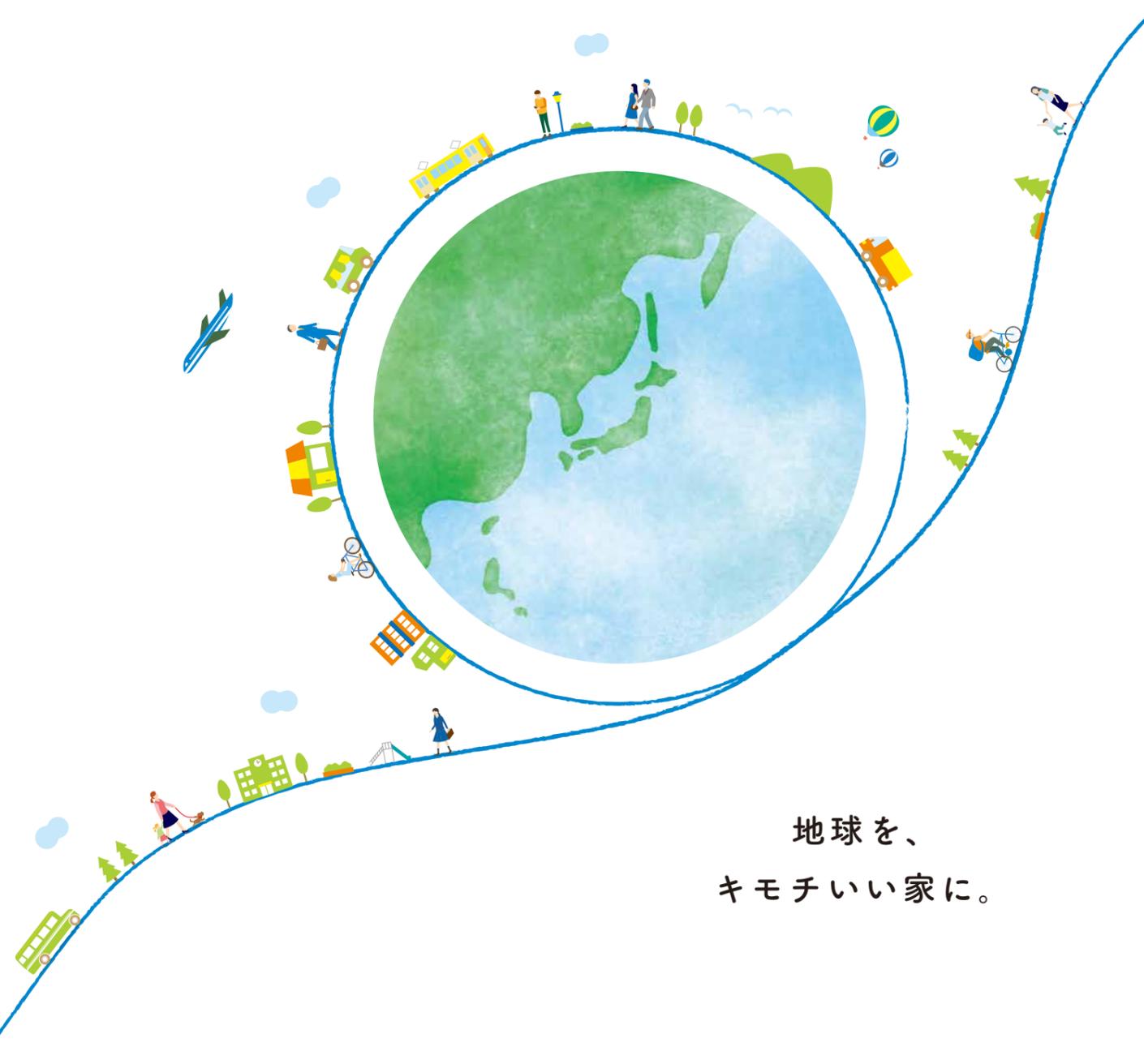
見つけた～  
塗りムラがあるとき  
成分が覆われていないすき間を虫に狙われる

# CSR報告書

# 2021

Corporate Social Responsibility Report

## Act For Life



地球を、  
キモチいい家に。

## トップメッセージ

# 感染症トータルケア カンパニーとして 世界の人々の安全で快適な 暮らしを実現していきます

アース製薬株式会社  
代表取締役社長CEO

川端克宜



委員会が12会場に設置した「虫ケアステーション」のスタッフとして、参加者やボランティアの方々に対して虫ケアの啓発活動を実施しました。

こうしたスポーツイベント等での虫ケア啓発活動は、事業そのものを通じて社会課題の解決を目指す「CSV経営」の一環です。2021年度からは、社長直轄の部署として「CSR/サステナビリティ推進室」を設置して、さらに活動を強化しています。

## 「事業を通じて社会に貢献する」を わかりやすく

私は、ESGやSDGsといった社会に対する考え方は、新しい考え方ではなく、もともと私たちが持っていたものであると思います。それがはっきりと明文化されたことで、これまで自分たちがやってきたことと照らし合わせて、より意識して活動していくことができるようになりました。

また、実際にやっている活動を、改めて周囲に向けて宣言していくことが必要です。そのために、たとえば人事部を「人財マネジメント部」という部署名に変えました。「財」という文字は「人がすべて」という当グループの考え方を表現しており、人それぞれの長所を活かしているいろいろな意見を取り入れていくためには、「マネジメントする」という考え方が大変重要になるという意味を含めています。ほかにも、「お客様相談室」を「お客様のお気づきを活かす窓口部」に変更しましたが、取り組みの内容をよりわかりやすくすることで意識を変えていこうという意図があります。

会社では、「言わなくてもわかってくれるだろう」「ちゃんとやっていてくれるだろう」という思い込みが、失敗の原因になりがちです。やっていることを外に対してもきちんと表明することで、社会に対して約束し、それを果たしていくことができると思います。

2021年5月には、国際連合が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に署名し、参加企業として登録され



ました。事業を通じた社会貢献活動を国際基準で“見える化”するとともに、グローバルにおいても、アースグループのESG経営をさらに推進していきます。

## 社会のため、お客様のためになることを 最優先に

SDGsをはじめ、サステナビリティの目標は長期的な視点に立っており、目標もハードルが高く厳しいものが多くあります。アースグループとしては、できることとできないことを選別しながら、できることは必ずやっていきたい。環境負荷の低減など厳しい基準もありますが、最後は社会のため、お客様のためになるということを優先順位として、一つひとつ取り組んでいきたいと思っています。

お取引先様に対しても、アースグループの考え方に対して共感を求めている必要があります。グローバルで見ると、国や地域によって温度感が違うなど課題が多くありますが、特に新しく手を組むところには、必ずアースグループの考え方を提示して一緒にやっていきます。

目先の利益よりも、私たちの事業が世の中にどういう価値を生むかということが一番重要です。それが虫ケアをさらに進めて、「感染症トータルケアカンパニー」を標榜した理由です。その点を社内にも浸透させ、事業そのものが社会に貢献している会社で働くという喜びを、従業員にも感じてほしいと思います。

感染症ということを考えたとき、事業の展開としてはグローバルを意識せざるを得ませんし、広く地球全体の話だと思っています。世界の人々が安心して暮らせる社会をつくるために、アースグループがお役に立てるという自覚と責任を持って、持続的に成長しながら、新しいことにも挑戦していきます。



## これまでの事業基盤をベースに、 さらにその先へ

アースグループは、昨年より「感染症トータルケアカンパニー」を全面に掲げて活動を進めています。

世界は今なお、新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされています。事業への取り組み方や働き方が一変するような急激な変化の中であって、虫媒介感染症を予防する虫ケア用品をコア事業としてきた当グループとしても、創業以来、事業の根底にある「感染症に立ち向かう」という考え方に立ち返り、より広いフィールドでその使命を果たしていきたいと考えています。

もちろんそこには、これまでのアースグループを支えてきた基礎研究の地道な継続があります。そこから周囲に目を向けると、新型コロナウイルス感染症を背景として、当グループが得意とする「除菌」「消臭」といった分野に、取り組むべきニーズがあることがわかりました。

きっかけとなったのは、日本発の革新的な酸化制御技術「MA-T」(P.9参照)です。「MA-T」の普及と価値向上について、オープンイノベーションや産官学との連携を通じて新たな用途を拡大し、これまでにない異業

種とも手を組んで課題を解決するなど、事業のフィールドを広げています。

## コロナ禍での経験を 次の時代に活かしていく

一方では財務基盤の立て直しという課題に取り組む中で、今までのやり方とは変えていこうという意識も強く、これまでに確立してきた技術や営業の基盤を活かしながら、新たな市場を開拓できたことが、2020年度の好調な業績にもつながりました。

社内的にも、コロナ禍によってリモートワークやウェブ会議などを導入しましたが、アフターコロナにおいても、その成果を検証しながら良いものは残し、そうでないものは改めていくという姿勢を貫き、状況に応じた最善策を選択していきたいと考えています。

開催が1年延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、厳しい感染予防対策の中、無観客での開催となりましたが、スポーツを通じて世界を勇気づけることができたのではないかと思います。東京2020オフィシャルパートナーであるアース製薬は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織

## アース製薬の経営とCSR

アース製薬の経営理念は、「<sup>いのち</sup>生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」こと。  
この経営理念を追求することにより、人類共通の世界目標であるSDGs（「持続可能な開発目標」）に貢献できると考えています。そして、経営理念の実現は、当社のCSRそのものです。

### アース製薬の強み

#### 製品開発

オープンな雰囲気と最新の研究設備で独自性の高い製品を開発

#### 生産管理

最適な生産体制と高度な管理体制で常にベストクオリティの製品をお客様のもとへ

#### 営業戦略

業界屈指の営業部員数を活かし、お客様目線での独創的な売り場づくりを可能に

#### グローバル戦略

緻密な市場調査による地域密着型のビジネスモデルで、全世界に製品をお届け

### 家庭用品事業

売上額 **179,374** 百万円

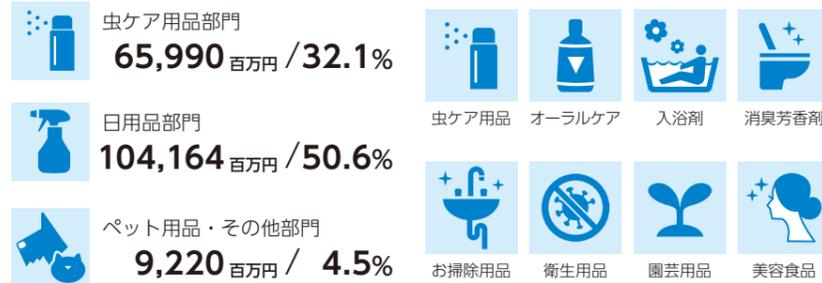
売上高構成比 **87.2%**

### 総合環境衛生事業

売上額 **26,420** 百万円

売上高構成比 **12.8%**

#### 内訳



### 中期経営計画

2021年からの次期中期経営計画では、従来の取り組み骨子を踏襲し、戦略の方向性を「アジア収益基盤の拡大」、「ESG・オープンイノベーション」、「コストシナジーの創出」と定めています。また、進めている数値の見え方を発展させ、重視する指標=モノサシの刷新を進めています。

構造改革	戦略の方向性
モノサシ・メトリクス刷新	アジア収益基盤の拡大
	ESG オープンイノベーション
	コストシナジー創出

#### 【アースポリシー】

お客様目線による市場創造  
Creating a Market with customers  
熱意・創意・誠意  
Passion・Innovation・Integrity  
すぐやる・必ずやる・最後までやる  
Momentum・Achievement

#### 【アースバリュー】

全員参画  
One Earth  
コミュニケーション  
Open communication  
人がすべて  
Diversity

#### 【経営理念】

<sup>いのち</sup>生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。  
We act to live in harmony with the Earth.

### 注力するCSRテーマ

（アース製薬が解決すべき社会課題）

#### 保健衛生(感染症)

虫ケア用品を通じた虫媒介感染症撲滅への貢献 (SDG3.3)



#### 保健衛生(口腔内環境)

オーラルケア用品の普及を通じた口腔衛生への貢献 (SDG3)



#### 環境

廃棄物削減に向けた季節製品の返品削減 (SDG12.5)



製品ライフサイクルを通じた環境・健康上適正な化学物質の管理 (SDG12.4)



○工場、オフィス、物流におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減 (SDG13.1)



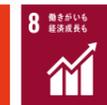
○自然災害などに対する事業のレジリエンスの強化 (SDG13.1)

#### 労働環境

働きがいのある仕事と職場の創出 (SDG8.5)



ダイバーシティの推進 (SDG5.1/5.5/8.5)



## CONTENTS

トップメッセージ	1
アース製薬の経営とCSR	3
虫ケア用品パイオニア企業としての歴史	5
<b>特集1</b> 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とアース製薬	7
<b>特集2</b> 感染症トータルケアカンパニーとしてのアース製薬	9
アース製薬のCSR/サステナビリティ	11

CSRマネジメントデータ	13
<b>[環境報告] Environmental</b> 地球と共生するために	15
<b>[社会性報告] Social</b> 社会と共生するために	22
<b>[ガバナンス] Governance</b> 信頼を得るために	33
第三者意見	36
会社概要、基本データ、編集方針	37

## 虫ケア用品パイオニア企業としての歴史

アース製薬は、創業以来、生活者へ虫ケア用品の提供とともに、啓発活動や情報提供を推進、虫媒介感染症対策を提案し、事業そのもので社会課題の解決をしてきました。虫ケア用品パイオニア企業としての知見・強みを活かし、社会課題の関心が高い「健康増進」や「衛生関連」、「介護の負担軽減」を事業領域とし、口腔衛生をはじめ、住居、介護の分野へ取り組み、社会貢献につなげていきます。

## 未来につながる商品の歴史



## 進化し続けるお客様目線による製品開発

SDGs(持続可能な開発目標)の課題3「すべての人に健康と福祉を」を重点テーマとして製品開発に取り組んでいます。その中でも虫媒介感染症において身近な害虫である「蚊」の対策商品に注力してきました。屋内で使用する「アース渦巻香」や「アースノーマット」、屋外で蚊による虫さされを予防する「サラテクト」など時代とともに進化し、またお客様のニーズに合わせたラインナップの提供を続けております。

SDGsの課題12「つくる責任つかう責任」では、製品開発において有効成分に天然成分・オーガニック成分・食品成分などを積極的に採用することで環境に配慮した製品開発を行っております。

### TOPIC 01 「蚊」対策商品の進化

蚊とり線香、蚊とりマット、液体蚊とりのように、時代とともにアース製薬の虫ケア用品は常に進化を続け、お客様それぞれに合ったラインナップを提供しております。また、屋外での蚊の予防としての虫よけ剤「サラテクト」も1994年発売以降、お客様がより使いやすい商品へ進化を続けています。



### TOPIC 02 安心・安全を追求した商品開発

虫ケア用品、衣類用防虫剤、園芸用殺虫殺菌剤など幅広い分野で、有効成分に化学薬剤を使わず天然成分やオーガニック成分、食品成分を使用した開発を積極的に行うことで、より安心な商品提供を追求しています。



# 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とアース製薬

アース製薬は、JOC・JPCオフィシャルパートナーとして、アスリートのコンディション、声援を送る人々の安全と快適を「虫ケア用品」「感染症予防サービス」を通じて守り、また、おもてなしの心をもって、東京2020大会をサポートしてきました。

※アース製薬は、東京2020オリンピック・パラリンピックのオフィシャルパートナー（虫ケア用品、家庭用肥料、培養土及び除草剤）です。



特集

# 1

## 全会場でスタッフ・ボランティア向けに「サラテクト」を提供

アース製薬は公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に対して、スタッフ・ボランティア向けに大会活動の妨げとなる虫の被害予防、また大会中の虫媒介感染症罹患リスク対策として、虫よけ剤「サラテクト」を全競技会場、選手村、IBC（国際放送センター）、MPC（メインプレスセンター）に4,500本提供しました。

スタッフ・ボランティアの方々が虫よけ剤の効果的な使い方を習得し、虫対策をしっかりと行って活動に励んでいただけたのではないかと考えています。

東京2020オリンピック・パラリンピックオフィシャルパートナーの一社として大会の安心・安全な運営に一助となる取り組みを行いました。



スタッフ・ボランティアの受付カウンターで「サラテクト」を使ってもらう

## 東京2020教育プログラム

東京都オリンピック・パラリンピック教育支援プログラム（東京都教育委員会）として、都内の小学校で出前授業を行っています。「虫ケア啓発授業」では、オリンピック・パラリンピックと感染症対策との関係や、キケンな虫の正しい知識と対策を学び、安心してボランティアなどの野外活動に取り組めることを狙いとしています。クイズや害虫観察を交えながら、楽しく学んでもらいました。「植育教室」では、身近な植栽のお世話を通し、思いやりの心を育み、ボランティア精神や環境保全意識の醸成につながることを目的とし、野菜や花の種の植付けを一緒に行いました。



アース製薬社員による出前授業

## 虫媒介感染症啓発活動「虫ケアステーション」

世界中の全ての人の健康を願い、虫が媒介する感染症予防のために、虫よけ剤の正しい使い方を周知する活動に力を入れています。

日本では、蚊が媒介するデング熱、ジカ熱だけでなく、身近に生息するマダニによって媒介するSFTS（重症熱性血小板減少症候群）や日本紅斑熱といった感染症が増加傾向にあります。このような被害を少しでも未然に防ぐために、虫よけ剤は大切な役割を果たします。

虫ケアステーションは、今大会のような、屋外の大規模イベントなどで虫よけ対策を呼びかけるブースです。

虫よけ剤「サラテクト」の使用体験を通じて、「虫よけ剤の正しい使い方」を説明し、誰もが安心して外で活動できるように、啓発活動を進めます。



使用体験に使われた「サラテクト」



## “植育”活動の成果を選手村で展開

### ■中央区でアサガオおもてなしプロジェクト

アース製薬は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の選手村にて、アサガオの鉢植えを提供し、選手を歓迎・応援しました。このプロジェクトは中央区に協力していただき、使用したアサガオは中央区16校の小学生の子どもたちが育てたもので、アース製薬はアサガオ栽培用マニュアルや栽培セットなどの提供、会期中のアサガオ栽培管理をしてサポートを行いました。

これにより、選手たちにパワーを送り、海外の選手たちには日本に来てよかったと思ってもらうだけでなく、未来を担う子どもたちが、おもてなしの精神や見てもらうための植物栽培を学びきっかけとつながりました。今後もアース製薬はこのような活動を通じて、児童の心を育み、日本を明るくすることに貢献していきます。



アサガオ栽培用マニュアル

### ■フラワーレーンプロジェクト\*

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が、本大会期間中に全競技会場入口を花で彩る「フラワーレーンプロジェクト」を実施しました。アース製薬は同プロジェクトにおいて虫ケア、培養土、肥料を提供し、きれいなアサガオを咲かせる活動を応援しました。

また、使用したアサガオの鉢植えは、アース製薬と競技会場のある1都6県の小学校の子どもたちが、種まきから一緒に育てたもので、合計4万鉢に上り、並べる際は花に応援や歓迎のメッセージタグも添えられました。今後もアース製薬はこのような活動を通じ、児童への植物を育てる体験・知識や環境意識、さらにはボランティアマインドを育む教育を続けていきます。

※東京2020組織委員会主催



子どもたちの講演

# 感染症トータルケア カンパニーとしての アース製薬

アース製薬は、従来から虫媒介感染症対策に関するソリューションを提供していましたが、これからは総合的な感染症対策を実現すべく、「感染症トータルケアカンパニー」を見据えた事業開発および展開を計画しています。

特集



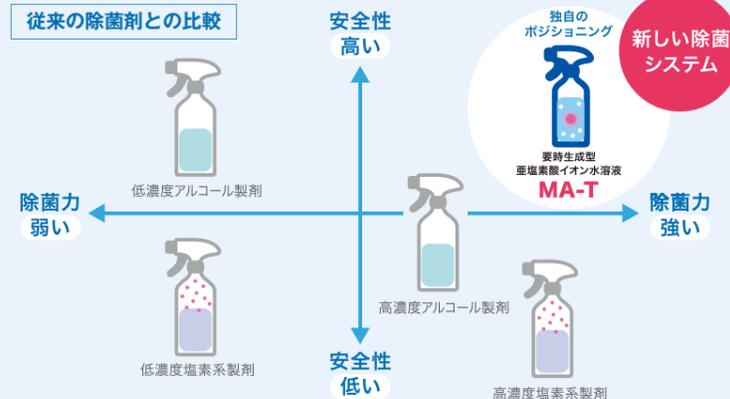
## 次世代の除菌・消臭ソリューション「MA-T」

MA-TはMatching Transformation System®の略で、革新的な酸化制御技術です。亜塩素酸イオンから、必要な時に必要な量の活性種（水性ラジカル）を生成させることで、新型コロナウイルスをはじめとするウイルスの不活化、種々の菌（細菌）の殺菌を可能にします。さらに活性度を巧みに制御することで、農業・医薬品・化粧品などへの幅広い応用が可能です。「すべての人に健康と福祉を」という、SDGs（目標3）の目標達成にも大きな貢献が期待される技術です。

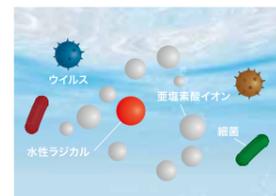
2020年6月、当社とエースネット社、dotAqua社の3社で、この革新的酸化制御技術であるMA-Tシステムを産官学連携やオープンイノベーションによるさらなる価値向上・認知拡大を推進するために3社間包括業務提携を行いました。また2020年11月には、MA-Tの普及と価値向上やオープンイノベーションの推進による科学技術の向上を目的として、「一般社団法人日本MA-T工業会」の設立に参画し、MA-T活用のプラットフォームの確実な構築と早期の社会実装の重要性を強く感じ、幅広い分野で、MA-Tの事業開発および展開を進めることを目指しています。



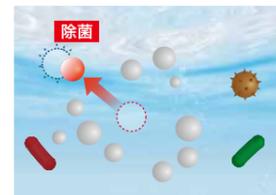
### 従来の除菌剤との比較



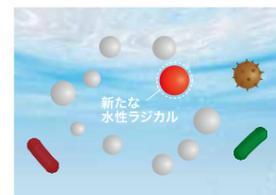
### MA-T システムメカニズム (イメージ)



MA-Tを含む水溶液を噴射した箇所に菌やウイルスがいた場合



水性ラジカルが菌やウイルスにぶつかることで除菌します



MA-Tの制御により、新たに水性ラジカルが1つ生成され、菌がなくなるまでMA-Tシステムが機能し続けます

## 「第1回STOP感染症大賞」 グランプリ受賞



アース製薬は、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会\*1が制定する「第7回 ジャパン・レジリエンス・アワード（強化化大賞）2021」の、感染症対策に資する先進的な取り組みを表彰する部門賞「第1回 STOP感染症大賞」\*2のグランプリを、日本発の革新的酸化制御技術MA-Tシステムで受賞しました。

当社は感染症対策における経験と知見を活かし、日本発の革新的酸化制御技術MA-Tシステムの普及を通して、世界規模で喫緊の課題となっている感染症対策に貢献することを目的とし、MA-Tシステムの社会的信用の向上や産業創造による経済効果の拡大、社会問題解決の可能性を探ることが当社のミッションと考え、活動しています。



授賞式に登壇した川端代表取締役社長CEO（中央左）と桜井執行役員（中央右）

今後は虫ケア用品のリーディングカンパニーから感染症トータルケアカンパニーへ、事業ドメインを拡大・展開し、これからも世界中のより多くの人々の暮らしに寄り添い、豊かで快適な生活が実現できるように貢献していきます。

\*1 一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会  
詳しくは（URL）<https://www.resilience-jp.biz/>

\*2 「STOP感染症大賞」新設について  
一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会が、感染症対策に貢献する取り組みやソリューション（技術、製品、サービス）などを表彰する「STOP感染症大賞」を、「ジャパン・レジリエンス・アワード」の1部門として創設しました。

## ウィズコロナ時代の防災備蓄のために

アース製薬は虫ケア用品のリーディングカンパニーとして、虫媒介感染症患者が一人でも減るように世界各地で活動を進めてきました。その経験と知見を活かし、日本発の革新的技術MA-Tシステム（P.9、P.29参照）の普及を通して、世界規模で喫緊の課題となっている感染症対策に貢献していきます。

MA-Tは高い安全性と優れた効果を両立することから、2020年8月に青森県今別町で行われた避難所

実証検証でも採用され、訓練に参加した人たちからも高評価を得ました。このMA-Tを採用した業務用商品「Aqua Create」は消防法上の危険物に該当せず、長期的な安定性も担保されることから、パンデミックおよびパンデミック下での災害に備えた備蓄強化に向けて、自治体や企業との協力体制を構築していきます。



災害時におけるMA-Tの有用性を展示

## 社内での感染症対策

### 感染症予防のための啓発活動

- ▶ 一人ひとりができる感染症対策として、「手洗い」「うがい」「換気」「ディスタンス」を啓蒙。
- ▶ ウイルスに対する換気的重要性を視覚的に捉えられるように「二酸化炭素チェッカー」を本社・本社 Act Terraceの全ての居室に設置したほか、各フロアと共有施設へのMA-Tを設置し、安心・安全な社内環境維持のため、社員自ら換気・消毒の徹底を日々実践。

### インフラ整備

- ▶ 時差勤務、在宅勤務制度の拡充により、社内インフラを整備し、ニューノーマルに沿った勤務を可能に。

- ▶ ディスタンスを保てるようにフリーアドレス化を促進、個人集中ブースの設置をはじめ、ほぼ全ての会議室にTV・スピーカーを設置し、オンライン会議にも対応。



社内での対策例

### 社内感染症対策

- ▶ 雇用形態に問わず、アース製薬で働いている全員に抗体検査キット、PCR検査キットおよびオリジナルで作製したマウスカバーを配布。
- ▶ 抗体検査、PCR検査は社内ガイドラインを作成し、結果に基づいて迅速に対応できるよう、危機管理マニュアルを更新、日々の感染症対策に当たっています。



洗って繰り返し使用可能なマスク

# アース製薬のCSR／サステナビリティ

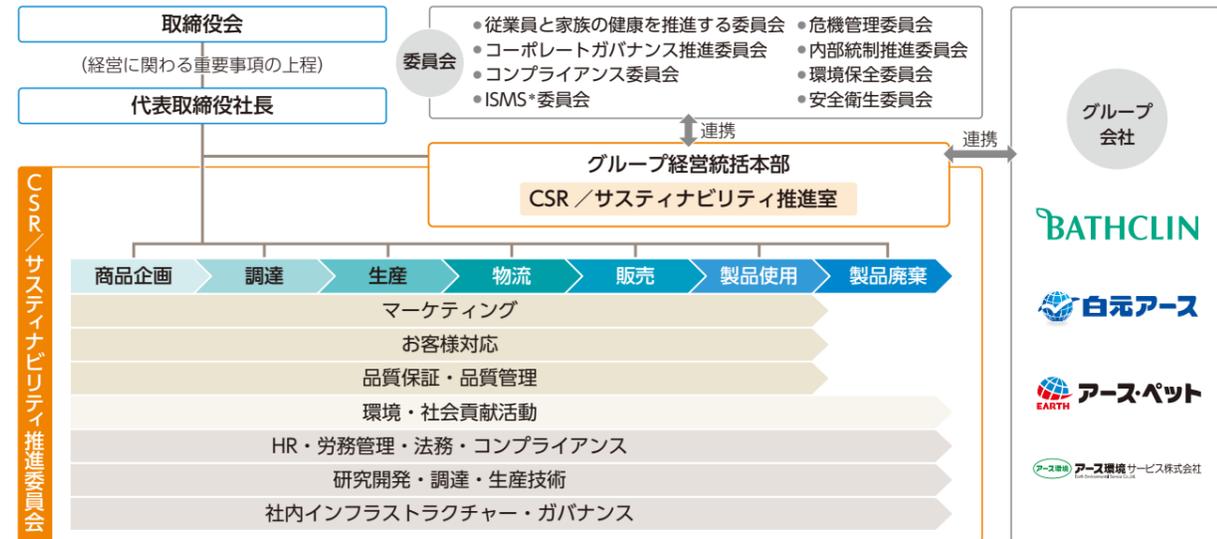
## CSR方針

アース製薬（グループ）は、安全で快適な暮らしの提供を通じた自社と社会のサステナビリティの実現に向けて、あらゆるステークホルダーの立場や目線を尊重し、積極的に対話を行いながら、全社員が参画してCSR活動に真摯に取り組みます。

## CSR／サステナビリティ推進体制

アース製薬は、CSR方針のもと、環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）の3分野を俯瞰し、CSRをはじめとするサステナビリティ活動を効果的かつ円滑に推進していくため、グループ統括本部内に「CSR／サステナビリティ推進室」を設置しました。また、現場でサステナビリティ

活動を推進する「CSR／サステナビリティ推進委員会」を設置し、CSR／サステナビリティ推進室とともに、活動計画や目標のモニタリング、活動内容の社内共有やCSR報告書の作成を行い、ステークホルダーの期待を踏まえた適切な情報発信に取り組んでいます。

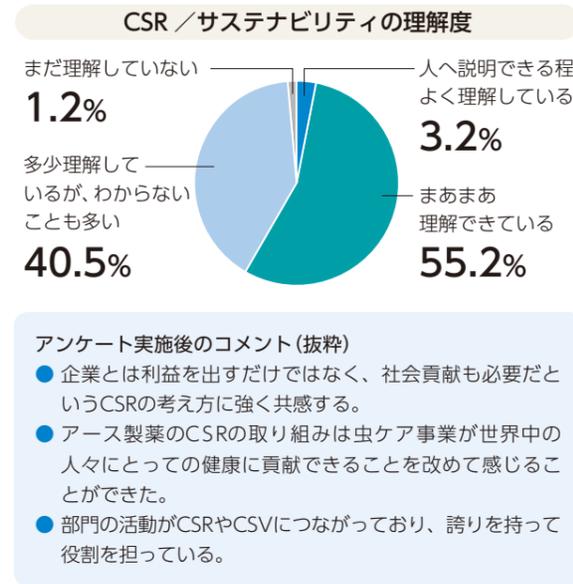


\* ISMS : Information Security Management System

## CSR／サステナビリティ活動の浸透

社員のサステナビリティへの理解促進を目的として、社内で説明会やe-Learningを実施しています。2020年は全社員（1,265名）に対してサステナビリティに関するe-Learningを実施し、受講者数は1,117名（88.3%）となりました。またEMAL会議や新入社員研修などでもアース製薬のサステナビリティ活動について説明を行いました。

e-Learningや説明会後にはアンケートを実施し、サステナビリティへの理解や今後の活動に対する要望などを募り、さらなる活動の発展に役立てています。



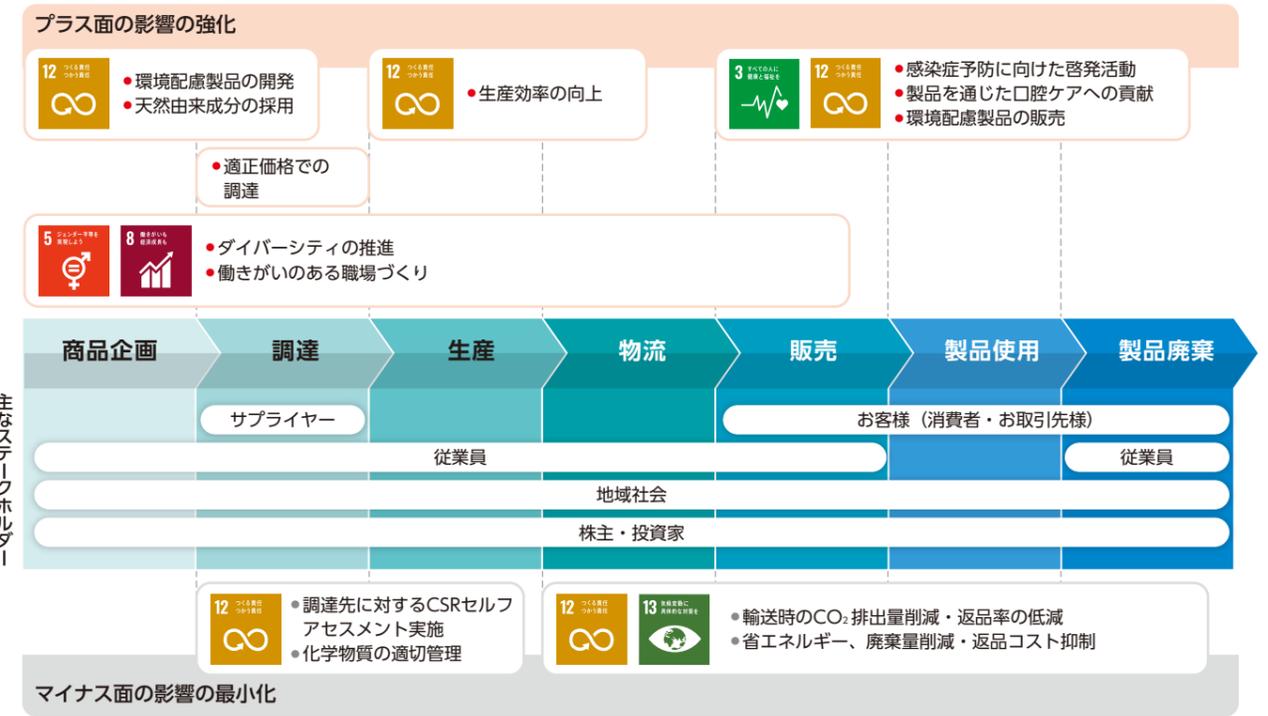
## アース製薬のステークホルダー

ステークホルダー	アース製薬の主な責任	コミュニケーション方法
お客様（消費者・お取引先様）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お客様の生命と暮らしに寄り添い、製品・サービスを通じて良質で快適な暮らしを提供することに努めます。</li> <li>● お客様とのコミュニケーションを大切にし、いただいた声をより良い経営に活かすことに努めます。</li> <li>● 公正な取引に関連する法令や社内ルールを遵守します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お客様窓口によるサポート</li> <li>● 広告宣伝</li> <li>● ウェブサイトなどによる情報提供</li> <li>● 営業活動を通じたコミュニケーション</li> </ul>
社員とその家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アースバリュー「人がすべて」の価値観に基づき、社員間のコミュニケーションを大切に、社会とともに発展・成長します。</li> <li>● 社員が動きがいが、やりがいをもち活躍できる職場を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社内報・イントラネット</li> <li>● 各種研修の実施</li> </ul>
サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 購買方針に基づき、公正に取引先を決定します。また、取引先の皆様にCSR活動を励行いただけるよう、CSR調達を推進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 購買活動を通じたコミュニケーション</li> <li>● CSRセルフアセスメントの実施</li> </ul>
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 適時・適切な情報開示により、説明責任を果たし、経営理念やビジョン、計画などの理解促進を図り、企業価値が適正に評価されることに努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主総会</li> <li>● 機関投資家・アナリスト向け決算説明会</li> <li>● 個別面談</li> <li>● ウェブサイトなどによる情報提供</li> </ul>
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国際社会との共生を目指し、保健衛生の向上、文化・スポーツの支援などに取り組み、社会に貢献します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域清掃活動</li> <li>● 出張教室の実施</li> <li>● 各種イベントの開催</li> </ul>
地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地球環境にやさしい製品・サービスの提供を通じて、地球環境の保全に貢献します。</li> <li>● また、自然を正しく理解した上で、地球との共生を実現します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 脱炭素</li> <li>● 脱プラスチック</li> <li>● 生物多様性保護</li> </ul>

## バリューチェーンにおけるCSR／サステナビリティ活動

アース製薬はCSR／サステナビリティ活動の推進状況および注力すべき課題を把握するため、バリューチェーン上に取り組んでいる活動をマッピングしています。注

力すべき課題については、目的をプラス面の影響の強化とマイナス面の影響の最小化に整理し、目標、取り組み内容、達成度の確認と活動内容の改善を進めています。



CSRマネジメントデータ

		担当	中長期目標 (2025年)	2020年 目標		
注力するCSRテーマ	虫ケア用品を通じた 虫媒感染症撲滅への貢献	講演会などのイベント参加者数 [名]	90,000	-		
	オーラルケア用品を通じた お口の健康への貢献	講演会などのイベント参加者数 [名]	60,000	55,000		
	季節製品の返品削減	返品率(虫ケア用品) [%]	4.5	6.8		
	地球温暖化防止の取り組み	工場・オフィスなどのCO <sub>2</sub> 排出量 [t-CO <sub>2</sub> ]	4,220 (2017年比42%削減 相当)	8,100		
		物流でのCO <sub>2</sub> 排出量 [t-CO <sub>2</sub> /千トンキロ]	0.120	0.131		
	働きがいのある 仕事と職場の創出	ワークライフ バランス実現の 取り組み	有休消化率 [%]	78以上	78以上	
			育児休業取得率 [%]	男女ともに100	男女ともに100	
			育児休業からの復職率 [%]	男女ともに100	男女ともに100	
			育児休業復帰後12カ月経過時点での定着率 [%]	男女ともに100	男女ともに100	
			介護休業取得者数および休業からの復職率 [名、%]	100%復帰	-	
		社員とのエンゲージメント 向上の取り組み	社員平均勤続年数* [年]	15.5	-	
			入社後3年間の離職率 [%]	0	-	
		ダイバーシティの 推進	ダイバーシティ 推進の取り組み	社員に占める女性の割合* [%]	45	50
				社員採用比率(男:女)* [%]	50:50	50:50
				女性管理職比率* [%]	10	10
	社員平均年齢* [歳]			-	-	
	高齢者雇用数 [名]			100	-	
	障がい者雇用率* [%]			2.5以上を維持	2.3	
	健康経営推進の取り組み	女性の基本給の、男性の基本給に対する比率	100	-		
人間ドック・検診受診率 [%]		100	-			
環境	省資源への 取り組み	水使用量 [千m <sup>3</sup> ]	42.1m <sup>3</sup> /億円 [売上高あたりの排水量*] (2017年比13%削減相当)	86.5		
		コピー用紙使用量 [千枚]	-	-		
	廃棄物削減の 取り組み	廃棄物排出量 [t]	1.80t/億円 [売上高あたりの排出量] (2017年比23%削減相当)	1,630		
		化学物質削減の 取り組み	PRTR排出量 [kg]	- [廃止]	30kg以下を維持	
環境マネジメント	環境法規制の違反 [件]	-	-			
ESG	お客様とともに	製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反件数 [件]	0	0		
		製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反件数 [件]	0	0		
		マーケティング・コミュニケーションに関する違反件数 [件]	0	0		
	社員とともに	社員総数 [名]	社員総数 [名]	1,500	-	
			男性 [名]	825	-	
			女性 [名]	675	-	
			正社員数 [名]	1,150	-	
			男性 [名]	725	-	
			女性 [名]	425	-	
			正社員以外の雇用人数 [名]	350	-	
			男性 [名]	100	-	
			女性 [名]	250	-	
			新卒採用人数 [名]	40	-	
			男性 [名]	20	-	
			女性 [名]	20	-	
			中途採用人数(正社員) [名]	40	-	
			男性 [名]	20	-	
	女性 [名]	20	-			
	労働安全衛生・ 社員の健康の取り組み	労働災害発生件数 [件]	初任給 [円]	-	-	
			1人当たり年間総労働時間 [時間]	1,800	-	
			年間所定労働時間 [時間]	1,790	-	
			労働災害発生件数 [件]	0	0	
	労働安全衛生・ 社員の健康の取り組み	労働災害発生件数 [件]	労働災害発生率 [%]	0	-	
			労働災害強度率 [%]	0	-	
			メンタルヘルス休職者数 [名]	0	-	
			労働災害発生率 [%]	0	-	
	人権への取り組み	人権に関する教育プログラム件数 [件]	人権に関する教育プログラム件数 [件]	3	1	
人権に関する研修受講者数 [名]			1,500	-		
ガバナンス	コンプライアンス	内部通報・相談件数 [件]	-	-		
		従業員のコンプライアンス研修 (および腐敗防止研修) 受講者数 [名]	-	-		
	取締役会	コンプライアンス違反件数 [件]	0	0		
取締役会の開催回数/出席率 [回/%]		出席率100	出席率100			
社外取締役員数 [名]	-	-				

\*取締役、執行役員(2018年3月までは役員待遇)、正社員、継続雇用者(嘱託・継続雇用・新エルダー・再雇用)、契約社員(時給除く)、EMALが対象者。役付取締役、監査役、社外役員、時給者(契約社員・パート・アルバイト)、顧問は対象外。

2020年 実績	2019年 実績	2018年 実績	2017年 実績	2016年 実績	補足説明
45,000	40,000	10,000	263	478	
4,000	13,000	2,000	205	-	
4.8	6.9	8.5	8.5	10.5	
7,982	7,633	7,789	8,161	6,590	・CO <sub>2</sub> 排出量の算定に当たって、2020年以前はエコアクション21準拠(電力の排出係数は固定値など)、2021年以降(2025年目標)は地球温暖化対策推進法に基づく算定・社用車含む・2017年:モンダミン新工場の完成、徳島工場の追加(旧アース・バイオケミカル機から移管)・2019年10月 Act Terraceの追加・2020年10月 徳島工場を移管
0.126	0.126	0.132	0.139	0.132	
70.4	73	74.3	63.3	-	・2020年分として付与した日数に対し、2020年中に使用された日数
男性32.1/女性100	男性18.2/女性100	男性22.2/女性100	男性11.5/女性100	男性0/女性100	・2019/1/1~2019/12/31出生が対象
男性100/女性92.9	男女ともに100	男女ともに100	男女ともに100	男性100/女性88.2	・2020年中に育休から復職した人、復職せずに退職した人
男女ともに100	男女ともに100	男女ともに100	男性100/女性86.7	男女ともに100	・2019年中に育休から復職した人、復職から12カ月時点で退職している人
2名/50%復帰	2名/-	0名	1名/100%復帰	1名/100%復帰	・期間:2020/1/1~2020/12/31
14.8	14.8	14.5	14.5	14.8	・2020年12月31日時点
12.5	22.2	13.6	30.8	25	・新卒採用の3年後の状況、2020年集計結果は2017年4月入社が対象
39	38	39.1	39.6	40.2	・2020年12月31日時点
64:36	70:30	67:33	57:43	72:28	・期間:2020/1/1~2020/12/31
7.1	6.4	5.3	4.9	5.4	・2020年12月31日時点
42.9	42.9	42.4	42.5	42.2	・2020年12月31日時点
80	77	67	63	61	・アースで60歳を迎えた新エルダー、契約社員で12/31時点在籍者 2020年12月31日時点
2.54	2.3	2.2	2.2	2.2	・2020年12月31日時点
100	100	-	-	-	・2020年新卒採用の入社時にて比較
100	100	96.7	96.9	94.7	
103.4	93.2	81.2	77.6	48.3	・本社・工場のみ・2017年モンダミン新工場の完成、徳島工場の追加(旧アース・バイオケミカル機から移管)・2019年10月 Act Terraceの追加・2020年10月 徳島工場を移管 *排水は汚濁水のみとし、冷却水など浄化処理が不要な排水を除く
3,987	3,955	4,648	4,709	5,418	
2,345	2,044	2,341	2,701	3,254	
26.2	27.3	34.1	21.3	1.5	・燃料を除く・2017年モンダミン新工場の完成、徳島工場の追加(旧アース・バイオケミカル機から移管)・2025年中期目標:法改正でPRTR対象物質の見直しが行われているため、数値目標の設定は見送り・2020年10月 徳島工場を移管・法改正により対象物質の変更が予定されており、それによって従来との比較が困難であるため、2025年中期目標において数値設定を見送ります
0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	
1,268	1,265	1,312	-	-	・2020年12月31日時点
778	783	799	-	-	
490	482	513	-	-	
895	893	932	-	-	・2020年12月31日時点
667	679	714	-	-	
228	214	218	-	-	
373	-	380	-	-	・無期契約社員、有期契約社員、嘱託、新エルダー、執行役員
111	-	85	-	-	
262	-	295	-	-	
52	30	39	-	-	
35	21	26	-	-	
17	9	13	-	-	
34	26	21	-	-	・期間:2020/4/1~2021/3/31
22	15	14	-	-	
12	11	7	-	-	
210,000	210,000	210,000	-	-	・大卒(修士230,000円) 2020年実績
1,824	1,801	-	-	-	
1,810	1,831	-	-	-	
9	14	28	18	25	・期間:2020/1/1~2020/12/31
1.31	2.6	3.43	2.19	2.73	・期間:2020/1/1~2020/12/31
0.00	0.04	0.01	0.03	0.01	・期間:2020/1/1~2020/12/31
3	3	1	4	5	・2020年12月31日時点
1	1	1	1	1	・新入社員研修+その他で実施したもの
52	30	40	33	28	・上記受講者数
3	1	5	3	10未満	
85	70	44	38	32	・毎年新入社員研修で実施。新入社員のほか、中途採用者も受講。
0	0	0	0	0	・コンプライアンス委員会がコンプライアンス違反と認めた件数
14回/99.4%	12回/99.2%	12回/98.6%	15回/95.4%	12回/98.8%	
2	2	2	2	1	

# E Environmental

環境報告

## 地球と共生するために

アース製薬は、「<sup>いのち</sup>生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」という経営理念のもと、持続可能な社会の実現に向けて、環境への取り組みを進めています。



### 環境宣言

私たちアース製薬は「<sup>いのち</sup>生命と暮らしに寄り添い、地球と共生」を基本理念に、あらゆる事業活動に対し、自ら積極的に地球環境保全に配慮し、世界の人々の暮らしに貢献します。

### 環境基本方針

アース製薬は2007年に環境基本方針を定め、環境に配慮した事業活動を行っています。

1. 環境保全に関する法規制・取り決め事項・自主基準を遵守する。
2. 環境に配慮した製品開発、資材調達、生産、物流、販売を行う。
3. 省資源・省エネルギーを推進する。
4. 廃棄物の削減とリサイクルを推進する。
5. すべての従業員が環境保全に高い意識を持ち、自ら社会に貢献できるよう教育・啓蒙を行う。
6. 地域社会の環境保全に責任ある対応を行う。
7. 環境保全に関する情報開示を積極的に行う。

### 環境マネジメントシステム

アース製薬では、2007年5月に環境マネジメントに関する全社的な組織を構築し、環境保全の取り組みを開始しました。

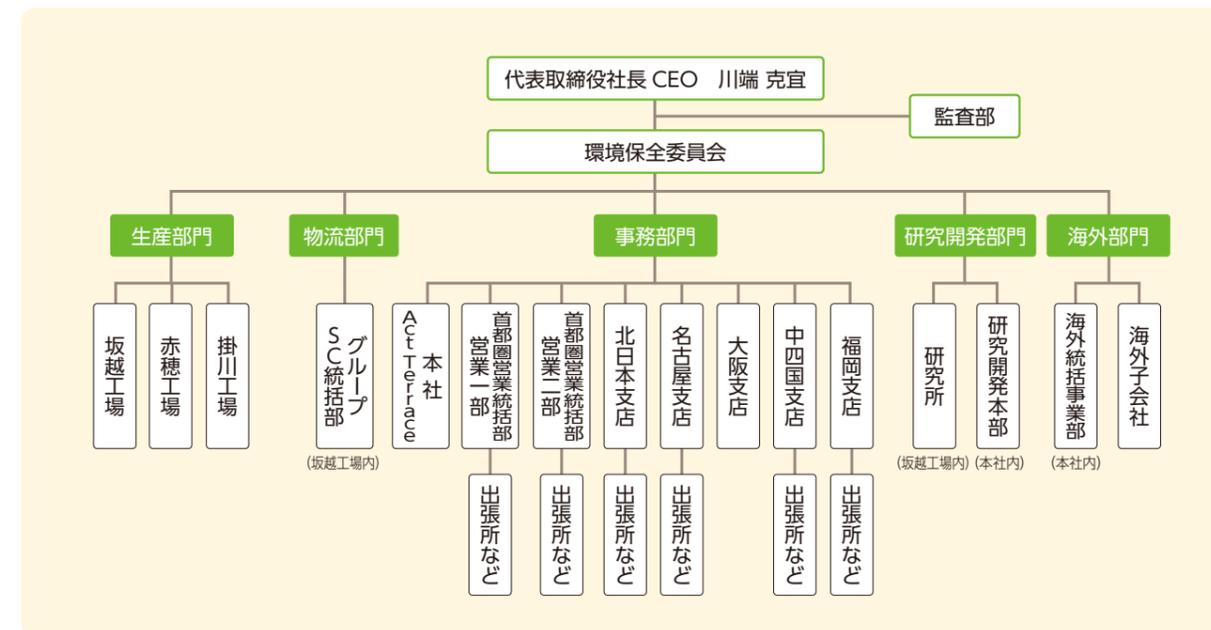
その取り組みを強化、継続するため2009年1月に本社・工場で環境省策定の環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証登録を受け、2010年4月には国内全事業所に拡大しました。

このように全社でマネジメントシステムを運用し、外部機関による審査を受けることで、効果的に取り組み、活動の定着を図っています。



エコアクション21認証・登録証

環境マネジメント体制図



### 環境教育

「環境基本方針」に沿って社員一人ひとりが高い意識を持って活動できるよう、全社員を対象に環境教育を実施しています。方針や目標、法規制、環境動向など基本的なことに加えて、各事業所・部署の責任者、担当者の役割に応じた教育、そして新入社員向けの教育も行っています。今後も教育内容を拡充していきます。

### 内部監査

本社・工場・支店などを対象に毎年、環境内部監査を実施しています。監査ではチェックリストに基づき、取り組みを評価し、さらに相談や意見も受け付けながら、改善につなげています。内部監査の結果、2020年は法令違反など重大な事案はありませんでしたが、さらなる活動の推進のため、環境関連掲示物や環境教育について改善を要請しました。今後一層、監査員の育成と監査の実効性の向上を図り、環境マネジメント体制を強化していきます。

### 法令遵守

事業活動を行う上で対象となる環境関連法規制は数多くあり、その遵守状況を定期的に評価しています。2020年も違反や関係当局からの指摘はなく、過去10年以上ありません。しかし、法令遵守は最低限の義務であり、常にそれ以上の状態を維持できるよう、社員教育やリスクの把握とその対策を行っています。

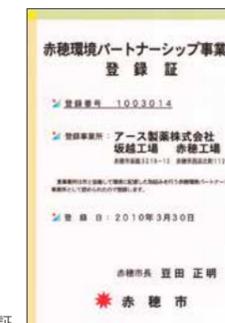
### アースグループ内での連携

アースグループ各社が環境保全に取り組む中、グループ間の連携強化も進めています。工場・オフィス共通の取り組みは取りまとめ担当者などをメンバーとする「アースグループ事務局会議」、省エネルギーや廃棄物など工場特有で専門的な内容は実務担当者も参加する「アースグループ環境会議」を設けて、情報共有と相互理解を深めながら、具体的な活動をグループ各社に展開し、相乗効果につなげています。

### ● 地域社会と連携した環境への取り組み

アース製薬の主力工場である坂越工場、赤穂工場、そして研究所(坂越工場内)はいずれも兵庫県赤穂市に立地しています。赤穂市とは「環境保全協定」を締結し、排水などの基準の遵守、履行状況の報告、公開を行っています。また「赤穂環境パートナーシップ事業所」に登録し、赤穂市と協働で、温室効果ガス排出削減などの環境負荷低減に取り組んでいます。さらに、赤穂市内の企業、赤穂商工会議所で構成する「赤穂環境保全協議会」にも加盟し、会員企業と連携した環境保全活動も実施しています。このように地元の環境保全にも積極的に参画しながら、地域社会との共生を図っています。

赤穂環境パートナーシップ事業所登録証



## 環境負荷の低減

### ● バリューチェーンを通じた取り組み

アース製薬では、環境負荷の低減や循環型社会の形成に向けて、製品開発、資材調達、生産、物流、販売のバリューチェーン全体で、地球温暖化防止、省資源、廃棄物削減、化学物質の削減や適正管理などに取り組んでいます。

#### 製品開発

容器や包装材の減量化、製品のコンパクト化やロングライフ化、つめかえ製品は、原材料の省資源化や家庭ごみの削減になると同時に、輸送段階でも省エネルギーやCO<sub>2</sub>排出量の削減につながります。このように製品のライフサイクル全体の環境負荷を意識しながら、3R「リデュース(減量)、リユース(再利用)、リサイクル(再利用)」の視点で環境に配慮した製品開発に取り組んでいます。また、天然由来成分や環境負荷が低い素材を使用した製品も拡充しています。

#### 資材調達

容器や包装材の減量化などの省資源化、リサイクル素材の採用など環境に配慮した原材料の調達を推進しています。また、原材料の納入形態を変更することで省資源化や輸送効率の向上に取り組んでいます。そのためにはお取引先様との連携が重要であり、環境などCSR調達に対する考え方を理解していただきながら進めています。

#### 生産

工場では、省エネルギー、廃棄物削減、節水などの環境活動も、生産現場のムダを取り除く「カイゼン提案活動」の一環と認識して、社員一人ひとりがさまざまなアイデアや意見を出し合いながら長年取り組んでいます。また、薬剤などの化学物質に関しては、取扱い・製品含有量などの収支管理、作業員への安全教育、漏えい対策・訓練など徹底管理のもと、安心・安全な製品づくりにつなげています。



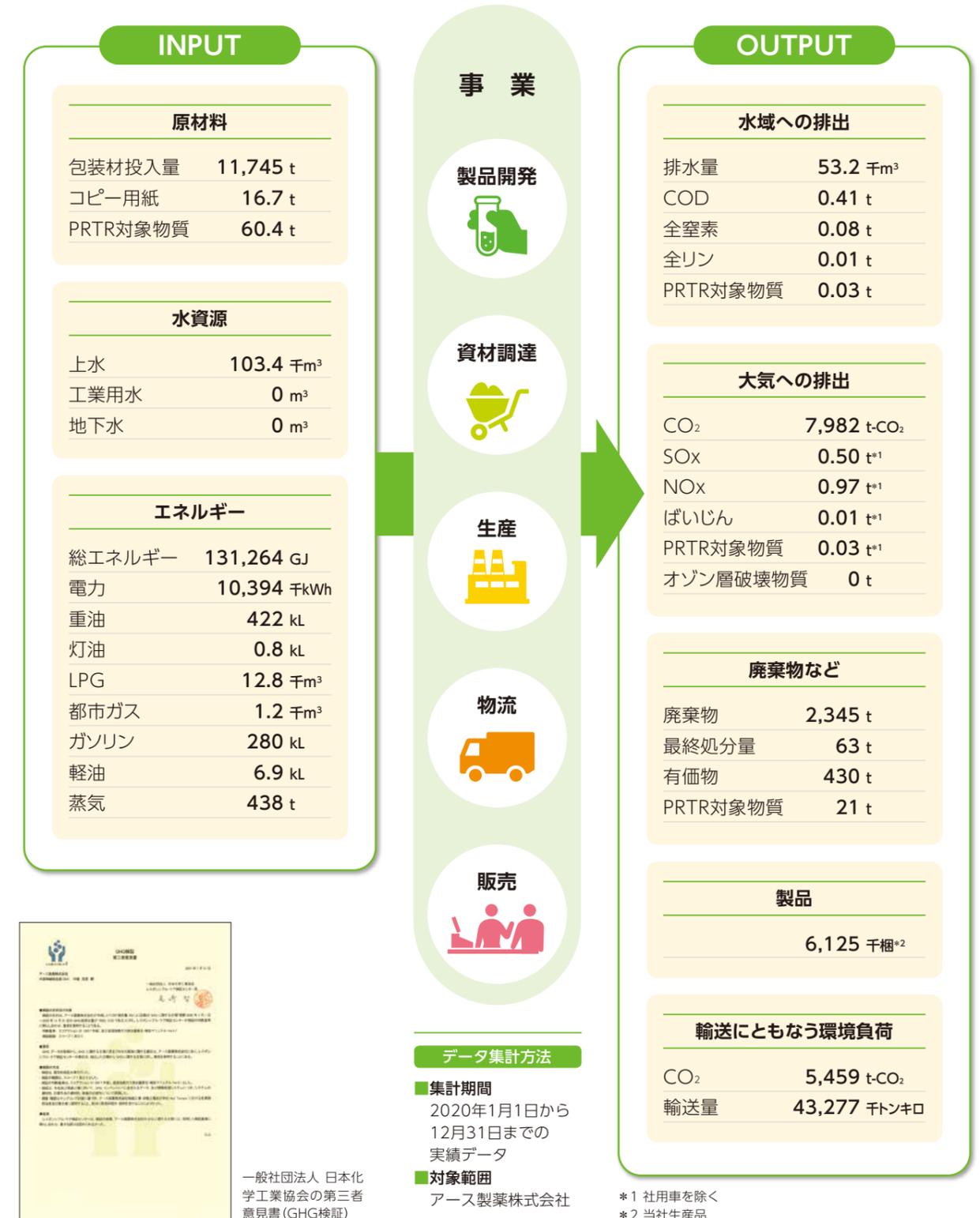
#### 販売

社有車にハイブリッド車など低燃費・低排出ガス車を採用するとともに、営業活動で運転する際はエコドライブや効率的なルート選択などの実施により、車両からのCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています。また、季節製品が売れ残ると返品され廃棄物につながることから、代理店様、小売業様と連携し、適正な需要予測に基づく適切な製品導入と売り場づくりに取り組んでいます。

#### 物流

輸送時のCO<sub>2</sub>排出量を削減するため、物流の委託会社と連携して、輸送効率の向上を図っています。積載効率のアップやモーダルシフトの拡大、物流拠点の最適化など、今後も、より効率的な物流に取り組めます。

アース製薬では、事業活動における原材料やエネルギーなどの資源(インプット)とその活動で生じる製品や環境負荷(アウトプット)を定量的に把握し、適正に管理するとともに、その低減に取り組んでいます。



## 環境負荷の低減

### ● エネルギーの見える化で効率的な省エネを実現

アース製薬が使用するエネルギーの大半は工場・研究所で使用しています。その使用状況を詳しく把握することで、効率的、効果的な省エネルギー活動が実施できると考え、2013年から2016年にかけて全ての工場・研究所にて、電力使用状況などの「見える化」を図りました。

### ● 社員参加型の省エネルギー活動

「見える化」システムを活用した社員参加型の省エネルギー活動の推進と定着を図るため、2015年10月には工場・研究所の各部署から設備などに熟知したメンバーを選出し「省エネ推進委員会」を発足しました。月1回の推進委員会を通して、改善内容をお互い共有、展開し、さらに大きな成果を創出できるよう活動の推進を図り、工場・研究所における省エネルギーの取り組みの中心的な役割を担っています。

#### 坂越工場・赤穂工場・研究事務所棟

#### 年間削減電力量と年間電力使用量に対する削減率



### ● アースグループ全体を通しての省エネルギー活動

アースグループ全体のシナジー効果を創出する取り組みとして、生産部門の部署毎にチームを結成し、分科会形式で各テーマの情報共有を行う「アースグループ生産部門交流会」を設けています。省エネ推進委員会で取り上げた具体的な事例を分科会で情報共有することにより、アースグループ全体の省エネルギー活動につながっています。2020年には、省エネ推進委員会で「効率的・効果的な活動」、「アースグループ各社への展開」、「継続性」の3つの観点で議論し、工場におけるエネルギーの使用割合が高いエアについて、漏れを撲滅する活動を開始しました。この活動を実践するに当たり過去の取り組み事例から問題点の分析を行い、効率的なエア漏れ箇所の発見と漏れ量の把握が必要であると考えました。そこで、「さまざまな箇所で使用可能」、「容易に持ち運び可能」、「誰でも使用可能」をコンセプトにエア流量計測装置の内製化を行い、省エネ推進員を中心としたエア漏れ撲滅活動を実施しています。この内容は分科会で情報共有し、アースグループ全体の活動として継続的に取り組みを行っています。



圧縮エアの漏れを検知

### Loopモンダミン

アース製薬は環境問題に対し、これまでさまざまな活動に取り組んできました。この活動の一環として、アース製薬は、耐久性の高い容器を活用し、使用済みの容器を回収・リユースすることで廃棄物ゼロの実現を推進する、循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」に賛同し、取り組みに参加することとしました。近年、経済成長と人口増加に伴い、廃棄物の増加が社会問題となる中、「モンダミン」シリーズでも定番の「モンダミン ペパーミント」をリユース可能なスタイリッシュなガラスボトルで販売をすることで、プラスチックごみ削減および循環型社会の構築の一助となることを目指していきます。

アース製薬は、2021年5月、循環型ショッピングプラットフォーム「Loop」専用品として「モンダミン ペパーミント リターナブルボトル 500ml」を首都圏イオン19店舗にて先行発売しました。また、8月にはLoop ECサイトでの販売を開始し、今後はイオン他店舗にも販路を広げていく予定です。今後も環境に配慮した取り組みにより一層注力していきます。



## 環境に配慮した製品開発

### ● 取り組みの背景

アース製薬では、製品のライフサイクル全体での環境負荷低減を意識した、3R「リデュース（減量）、リユース（再使用）、リサイクル（再生）」の視点で製品開発に取り組んでいます。アース製薬のものづくりの源流となる研究開発部門では、お客様の環境に対する意識の高まりを感じ、積極的に環境負荷低減に対応した製品開発に取り組んでいます。



研究部、環境対応包材プロジェクトチームメンバー

### 3Rの視点での製品づくり

#### 1 リデュース（減量）の視点

リデュース（減量）の視点では、これまでに17アイテムに関してコンパクト化を行い、変更前のプラスチック使用量と比較して約70トンものプラスチック使用量を削減しました。



#### 2 リユース（再使用）の視点

リユース（再使用）の視点では、つめかえてボトルを再使用できるものは20アイテムあります。特に園芸用品では、「アースガーデン おうちの草コロリ」に加えて、「やさお酢 エコパック1.7L」にもエアホールドパウチを採用しました。アース製薬はつめかえ製品にもこだわりをもって、お客様の使いやすさを追求した製品づくりを行っています。



#### 3 リサイクル（再生）の視点

リサイクル（再生）の視点では、「アース虫よけネットEX」の容器に再生プラスチックを使用しています。この再生プラスチックを使用した製品は29アイテムあり、年間では合計約739トンを使用しています。また、紙製の容器を使用している製品のうち約85%で再生紙を使用し、123アイテムが該当します。



### ● バイオマスマーク表示製品

2021年に発売した「アースサラテクトシート」の不織布にバイオマス100の素材を採用し、バイオマス100のマークを掲載しています。同じく「はじめてのアースサラテクトやさしいシート」には、環境にやさしい材料（シール部インキ）を用いることで、バイオマスマークを掲載しています。

このように、今後も可能な限り環境に配慮した製品開発に取り組んでいきます。



## アース製薬の研究開発

### 研究開発の基本方針



- アース製薬のものづくりで最も重要なことは「お客様目線」
- 有用な技術や素材は「誰のために」、「どう使うか」で捉える
- お客様自身も気づいていない日常生活の課題や不満を見つけ出す
- 独創的な商品によって、お客様の生活習慣にチェンジをもたらす
- 安心・安全・使いやすい・わかりやすいにこだわる
- 社会の役に立つ商品を生み出し続ける

### ● 殺虫成分フリーの安心・安全な社会に役立つ製品開発 「アースシラミとりローション」

2021年8月に発売した「アースシラミとりローション」は、日本では40年ぶりに承認された新規シラミ駆除剤です。この「アースシラミとりローション」の開発によって、アタマジラミに困っている子どもたちを救うという、社会に役立つ製品開発を行いました。今回、この製品の開発エピソードをご紹介します。

研究開発本部  
開発部部長  
岩田 陽一



#### ①アタマジラミの被害実態の調査

沖縄では、アタマジラミの被害が深刻な状況にあり、多くの子どもたちが長い間苦しんできました。そのほとんどのアタマジラミは殺虫成分に抵抗性を持ち、従来のシラミとりシャンプーでは駆除できなかったのです。

#### ②殺虫剤フリーへの挑戦

世界的に問題になっていたピレスロイド系殺虫成分に抵抗力を持つアタマジラミに対して、欧米では殺虫剤フリーのシラミ駆除剤が開発・使用されており、アース製薬はその有効成分である「ジメチコン」に着目しました。しかし、この海外のシラミ駆除剤は使用時のべたつき、使用後に髪の毛がパサパサになるなど、決して使い心地の良いものではありませんでした。

#### ③抜群の使い心地へのこだわり

そこで、研究開発者は数十種類の成分をスクリーニングし、徹底研究しました。そして、ジメチコンを使った抜群の使い心地のシラミとりローションが完成しました。



#### ④大学で臨床試験を開始

やっと完成した使用感の良いシラミとりローションを携え、アタマジラミに困っている子どもたちが多く、沖縄を訪問しました。沖縄では、琉球大学医学部の協力を得て、臨床試験を開始しました。

#### ⑤沖縄の子どもたちの笑顔のために

琉球大学で実施した臨床試験では、アタマジラミに苦しむ子どもたちに実際にシラミとりローションを使ってもらい、ほとんどの子どもたちからシラミがいなくなり、抵抗性のアタマジラミにも確かな効果があることが証明されました。その効き目は、臨床試験を担当した医師からも、「いち早く発売してほしい」という要望をいただいたほどでした。

#### ⑥40年ぶりの新規有効成分

こうして、確かな効果と安全性が証明され、日本のシラミ駆除剤として実に40年ぶりの新規有効成分としてジメチコンが承認されました。

#### ⑦アースシラミとりローション

このように、アースシラミとりローションは、アース製薬の研究開発の英知を結集し、お客様目線で開発された、殺虫成分フリーの安心・安全な、社会に役立つ商品として誕生しました。



### ● 知財に関する基本的な考え方

アース製薬では、研究開発で得られた成果を積極的に権利化することで競争優位性の確保に努めています。また、自社にとって有益な特許や意匠といった権利の維持、活用に取り組んでいます。

知的財産権保有件数	保有件数	2016年～2020年の特許登録件数(5年分)					
		登録年度	2016	2017	2018	2019	2020
特許	268	登録件数	23	23	25	23	31
意匠	171						

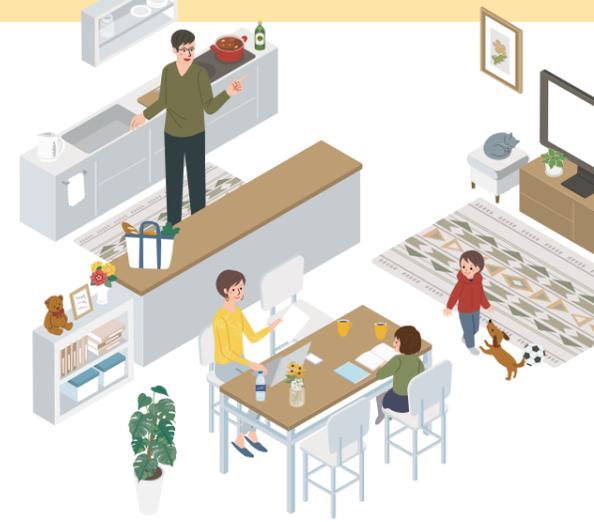
※2021年7月16日時点  
日本のみ

※登録日基準、日本のみ

# Social 社会性報告

## 社会と共生するために

アース製薬では、社会に有用な価値創造を行うCSV経営を行っています。CSRの推進においても、さまざまなステークホルダーを意識し、社会課題の解決に取り組めます。

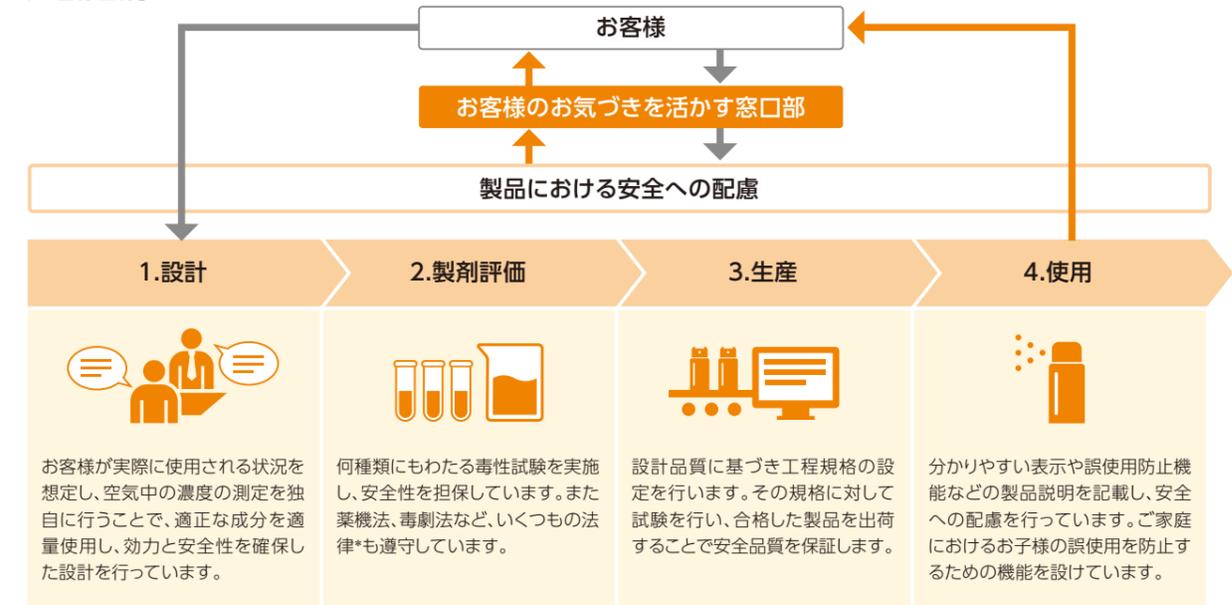


### お客様目線の取り組み

#### ● 安心・安全への取り組み

アース製薬では、環境負荷の低減や循環型社会の形成に向けて、製品開発、資材調達、生産、物流、販売のバリューチェーン全体で、地球温暖化防止、省資源、廃棄物削減、化学物質の削減や適正管理などに取り組んでいます。

「お客様目線」でのものづくり



\*薬機法(旧薬事法)、毒物及び劇物取締法、化学物質審査規制法、化学物質排出把握管理促進法、高圧ガス保安法など

#### ● 品質保証

原材料は、適切な試験項目と方法に基づいて評価を行っています。また製品は、法令に基づいた試験項目および製品機能に合わせた試験を実施しています。

その中で、一度に大量の試験検体を有機溶剤・試薬で処理するものを対象に、試験の信頼性・業務の効率化・試験従事者の安全性を確保することを目的として、処理作業の自動化を目指しています。

実例としては、蚊とり線香の有効成分含量測定用検体の自動処理装置を、品質保証部⇄外部機械メーカー

様と直接やり取りを行い、アース製薬の試験内容に沿った独自の機械設計・作製・運用を行っています。それによって、信頼性・効率化・安全性アップの確保ができました。

またこれにより、試験時に使用する有機溶剤の使用量・



検体検査を自動化

廃棄物削減にもつながっています。

今後引き続き、同様の別品目・試験においても、自動化装置の導入検討をしていきます。

その他、お客様が実際に使用される状況を想定した試験項目を行うなど、安心して使用いただける取り組みも行っています。

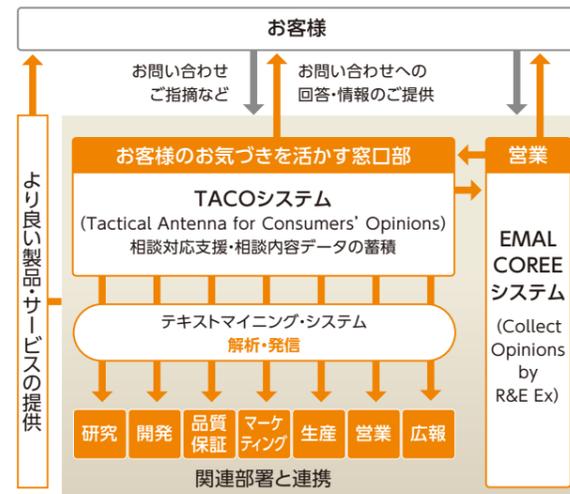
試験データの改ざん防止においては、試験機器・成績書の作成管理を一連で行うシステム(品質管理システム)にて、ログイン制限・パスワードを設定し、監査証跡機能を利用して一連の照査等を行うなど、データ

## 品質改善のために

### ● お客様相談室から

#### 「お客様のお気づきを活かす窓口部」へ

2021年4月より私たちは部署名を「お客様のお気づきを活かす窓口部」へと変更しました。アース製薬は、お客様が抱えている暮らしの課題に対して、お客様のご意見を商品開発に活かすことで、お客様の生活が少しでも快適になることを目指し企業活動を行っています。部署名の変更はこの活動の最前線に立ち取り組んでいく意思表示でもあります。



実際にお申し出をお聞きするという事は、私たちの耳が痛いことも多いですが、このようなお申し出であっても真摯に「お客様のお気づき」であると捉え、新製品の開発や既存品の改善に活かしてお客様と同じご迷惑をかけない製品づくりに携わることは私たちの重要な取り組みの一つです。

「お客様のお気づきを活かす窓口部」では年間10万件に及ぶ「お気づき」や「COREE※1」経由の情報をアース製薬

の信頼性を確保しています。

品質を維持するため、自社工場では品質保証部・生産部門への定期的な勉強会・品質監査を実施、また国内外を含めた生産委託先へも品質監査を実施し、品質改善を図ることでより緊密な協力体制・信頼関係を築き、お客様目線に基づいた品質確保の考えを共有化して、ものづくりに活かしています。また、お客様のお気づきを活かす窓口部に寄せられるご意見・ご要望を調査して設計・生産部門にフィードバックすることで製品品質の向上も図っています。

独自のお客様対応システム「TACOシステム」に登録予約し関連部署と共有しています。

また「テキストマイニング・システム※2」を追加導入し、今まで埋もれてしまっていたかもしれない些細な「お気づき」も十分に「活かす」ことのできる体制を整え解析・発信を関連部署に行っていきます。

※1 Collect Opinions by R&E Exの略でR&E部(Retail&EMAL部)が店頭で聞いたお客様のご意見を集めたいという意味のシステムです。  
 ※2 文章を単語や文節で区切り、頻度・相関関係・時系列・出現傾向などを解析し有用な情報として活用するシステム。

### ● お気づきをもとにした製品

#### 処方変更した「コバエがホイホイ」の今後に期待

この商品の捕獲効果はコバエの生態の影響を受けるため、捕獲効果にばらつきがあり、それに伴い苦情が多く発生していました。ヒット商品であるがゆえに販売個数との割合でみると「容認できる苦情割合ではないか」といった社内の声もありましたが、「お客様にとってはこの一品が全て」また「お客様と同じご迷惑をおかけしない」という思いから、お客様からお聞きした使用場所・日数などの情報を解析。これらを繰り返し、関連部署に改善を提案し続けました。その結果、生態の影響を受けにくいよう処方変更を行い、従来品より捕獲力を3倍に向上させた改良品を販売するにいたりました。

今後も今回の件を好例として「お客様のお気づき」をしっかりとお聞きし、より良い製品づくりに活かしていきたいと思えます。



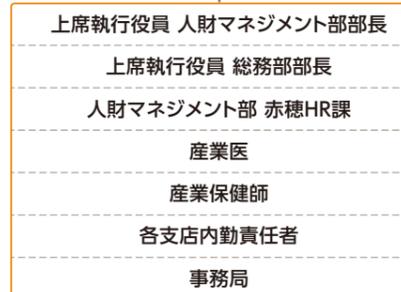
「お客様のお気づき」で改良した「コバエがホイホイ」

## アース製薬の健康経営宣言

### ● 「健康経営」の組織体制

上席執行役員を含む、全社横断の以下の体制で、健康経営年間計画に基づく月に1度のミーティングをはじめ、社内外への情報発信の推進等、従業員とその家族の健康推進に係る実務を取り行っています。

#### 従業員と家族の健康を推進する委員会



### ● 「健康経営優良法人2021～ホワイト500～」に認定

アース製薬は従業員の健康を重要な経営課題と捉え、健康経営を具体的に推進するために2019年10月に「アース健康宣言」を制定しました。健康保険組合と緊密な連携体制を確立して健診結果の分析と開示・各種施策への落とし込みを行っています。具体的には柔軟な働き方を後押しする各種人事制度の拡充、人間ドック受診・オフィスでの予防接種・感染症検査への助成などを行い、社員やグループの知見を共有する定期的な健康セミナーを開催しています。

そして2020年、経済産業省と日本健康会議が共同で選ぶ「健康経営優良法人2021～ホワイト500～」に初認定を果たしました。

これからも経営理念のもと、社員の健康管理の促進、長時間労働の是正等、職場環境整備を継続してまいります。



### ● M3PSP(エムスリー ペイシェント サポート プログラム)を導入

新たな取り組みとして、M3PSPを導入しました。このプログラムは、日本国内の約9割以上、30万人以上の医師ネットワークを活用し、医師や看護師への健康相談が無料で行えるほか、セカンドオピニオン取得や病院探しなどのさまざまなサービスが利用できます。これらの質の高い医療情報の提供を通じて、社員とその家族の心身の健康増進を一層サポートしていきます。



### ● 安全衛生への取り組み

健全で安全な職場環境を実現するため、次のような委員会や部会を設置し、活動を実施しています。

- 安全衛生委員会および衛生委員会
- 安全衛生部会
- 安全運転管理活動
- コンプライアンス委員会(内部通報窓口含む)

### ● オフィスで「風しん」抗体検査の実施

成人がかかると症状が重くなることがあり、また、妊娠初期の妊婦さんに感染させてしまうと、生まれてくる赤ちゃんの目や耳、心臓に障害が起きることがある風しんが大流行しています。患者の多くは大人であることから、職場での予防の重要性が増しています。職場で実施してきたインフルエンザ予防接種開催時に、過去に公的予防接種が行われていない世代の対象者は一緒に抗体検査を受けてもらえるようポスター掲示など各種ツールで呼びかけを行い、抗体検査を実施しました。

自分が風しんにかかると、家族や周囲の人たちに広げてしまうおそれがあります。

これから生まれてくる世代の子どもたちを守るためにも、これからも風しんの抗体検査と予防接種を推進していきます。



予防接種時に抗体検査も

## 社員とともに

### ● アース製薬の人財の考え方

アース製薬は、経営理念や経営目標を実現するための人財に対する施策を明文化するために、「アース人財理念」および「アース人財マネジメント方針」を策定しました。

#### アース人財理念

**社員とともに成長します**  
**=Challenge to Grow=**  
 ~一緒にチャレンジする働く仲間全員を大切にします~

#### アース人財マネジメント方針

- アースポリシーを備えた人財を採用します
- アースポリシーを備える自律した人財を育成します
- チャレンジする人にやりがいのある仕事、チャンスを提供します
- 成果を上げた人に厚く報います
- 安心して働ける職場を整備します
- 多様な働き方を実現します

### ● 「人材」から「人財」へ

アース製薬は、社員を会社発展の原動力となる価値あるかけがえないものとして「人材」ではなく、「人財」と捉え、「アースバリュー」で「全員参画、コミュニケーション、人がすべて」の3つを唱えているように人財を中心に考えています。

価値観の多様化、テクノロジーの進展、日本国内の人口構造の変化、グローバル化など、当社を取り巻く環境が激変している中、私たちの存在意義は新たな価値を生み出していくことだと考えます。そのためには、社員一人ひとりが目標を「見える化」し、向上心を持って業務に取り組むことが必要と考えています。時代の変化を見据えた幅広い視野とチャレンジ精神を持って積極的に行動するよう心がけています。

これらを実現するため、人事制度（採用・教育研修、人事異動、給与・評価制度、働き方改革、ダイバーシティ等）の各種人事施策を整備することにより、社員の働きがいを引き出します。また、多様な人財が力を発揮できるよう、社員それぞれの能力の強化に取り組んでいます。

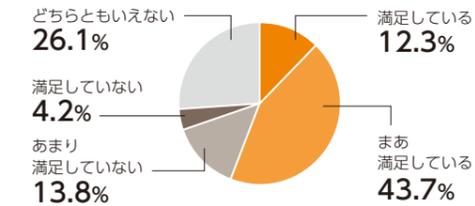


### アース人財 TOPICS

#### 社員満足度調査の実施

社員満足度の向上、組織の課題発見を目的として、はじめて社員満足度調査を実施しました。多くの社員の満足度がより高くなるよう、改善の取り組みを実施していきます。

#### 社員満足度調査：総合満足度



#### 褒める&貢献の見える化

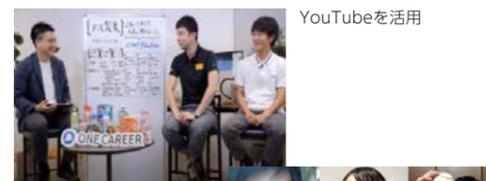
褒める組織文化づくり、部門を超えたコミュニケーション活性化を目指して社員同士が感謝・賞賛のメッセージとともにポイントを贈り合う仕組みを導入し、開始半年間で約3万5千件の投稿と120万回を超える“拍手”を記録しました。

また、社員表彰制度も拡充することで、貢献が見える化し、全ての社員のモチベーション向上を目指しています。



#### 時代に合わせた採用活動

新卒採用もオンラインが中心となりました。YouTube配信による会社説明会、PR動画投稿による面接の代用、オンライン面接などを活用。オンライン化により遠方の学生も増え、他業界志望の学生にも積極的にアプローチできた結果、応募者数は前年比で180%増となりました。



YouTubeを活用



オンラインで面接実施

### ● 働き方改革の取り組み

柔軟な働き方を実現していくために、トライアル実施による検証を経て、2019年9月に在宅勤務制度、2020年1月に時差勤務制度を正式導入しました。

2021年からは、社員自身がより自律した働き方ができるように、内容を拡大した選択制の在宅勤務制度に変更し、在宅勤務時の時差勤務も可能とするなど、働き方の新しいスタイルの実践に継続して取り組んでいます。また、2020年1月には、本社・支店が7時間30分、赤穂・掛川が8時間となっていた所定労働時間について、全社的に7時間30分に統一しました。その他にも、2017年から月1回で開始したノー残業デーは、2018年から週1回へと回数を増やして継続実施、年次有給休暇の取得を促進するため、以前より継続実施している夏季休暇の計画年休に加え、2021年からは有休取得奨励日を設定し、働く時間の短縮、適切な休暇取得を推進して、仕事の効率化と会社運営における生産性の向上を目指します。



ノー残業デーポスター

### ● ワークスタイル改革の取り組み

従来は社内申請の際に、書類を印刷し押印した上で、提出する仕組みで、印刷や押印のために出社することが必要でした。そこで、関連部門で連携し、申請ワークフローの見直しを行い、申請書類の電子化（ペーパーレス化）や電子印鑑による決裁を実施、経費精算や請求書処理も電子化することで手続きがよりスムーズになりました。また、社員からのよくある質問をまとめた社内Q&Aサイトを設置、容量無制限のファイル共有サービスの活用、過去の紙資料のデータ化、書類保管スペースの縮小などオフィスのフリーアドレス化推進のために必要なITインフラの対応も実施することで、場所に捉われずに働くことができる柔軟なワークスタイルに対応した環境の構築を進めています。2019年10月にオープンしたAct terracelにはAct Café（カフェスペース）を設置し、社員同士のコミュニケーションも大切にしています。



社員が自由に利用できるAct Café

### ● 人財育成

階層別研修	目的別研修
新入社員研修	ハラスメント研修
若手社員研修	ダイバーシティ研修
中堅社員研修	PCスキル研修
管理職研修	英会話研修

#### 新入社員研修

新たに社会人となる新入社員に対しビジネスマナーや人権についてはもちろんのこと、製品講義、営業研修、製造実習など、ものづくりに携わる一連の業務を全て経験できるカリキュラムを用意しています。知識の習得はもちろんのこと、この研修を通じて「働くとはどういうことなのか」、「何のために仕事をするのか」、「どうなりたいのか」を考えるきっかけとしてもらいます。コロナ禍の影響でリモート研修となりましたが、グループワークを取り入れ同期の絆も深めてもらい「人がすべて」の社風を感じていただいています。



リモート新入社員研修の様子

#### 階層別研修

全階層に対応できるような設計を検討し、現状では部長層に対しては「リーダーシップ」、課長層に対しては「コミュニケーション」と「コーチング」、係長層に対しては若手社員の面倒を見られる人財育成のプログラム内容で研修を実施しています。これらの外部研修の翌日には社内で役員および所属長より管理者に求められる知識や能力を強化する研修を実施します。若手社員に対しては営業職や赤穂勤務者など一部の社員にフォーカスした研修も実施しています。プレゼン発表などの社内研修やパソコンのスキルアップを目指した外部研修を実施しています。赤穂事業所では職種間の交流をしながら調整力を学ぶ外部研修を実施しました。



赤穂若手社員研修

## 調達における取り組み

アース製菓は、「いのちと暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」という経営理念を掲げ、これを実現すること自体がCSR(企業の社会的責任)への実践であると考えています。その中において調達活動は、まさに地球との共生なくしては成り立たないものであり、その実現のためには、社会全体の持続可能な発展に貢献することを目的としたCSR調達への取り組みを、お取引先様とともに推進していく必要があると考えています。

2017年にアースCSR調達ガイドラインを掲げてCSR調達に取り組んできましたが、CSRに関する近年の動向や国際社会の要請などに鑑み、2020年8月に同ガイドラインを改定しました。

### ● 調達方針

アース製菓は、全てのお取引先様に対し公正・公平で倫理的な関係を保ちながら、人権・安全衛生・環境に配慮した購買を行います。

アース製菓は、お取引先様との信頼に基づいたパートナーシップを構築し、相互で持続的に成長しながら、社会との共生を目指します。

#### アースCSR調達ガイドライン

- **購買：法令・規範遵守**  
私たちは、国内外の法令・国際的条約や社会規範を遵守し、企業倫理に基づいた購買を行います。
- **購買：製品の安全性・品質**  
私たちは、製品の安全性と品質を確保するため、要求品質を満たす原材料の購買を行います。
- **購買：公正取引**  
私たちは、全てのお取引先様に対して公平に窓口を開き、公正な購買を行います。
- **情報セキュリティ**  
私たちは、調達活動に関わる秘密情報・個人情報を厳格に管理します。
- **CSRへの取り組み**  
私たちは、お取引先様とともに、人権擁護・労働安全衛生・環境保全への取り組みを推進します。
- **得意先との信頼関係**  
私たちは、お取引先様との信頼関係を構築し、相互の成長を目指した持続可能な取り組みを行います。

### ● お取引先様への周知活動

お取引先様にアース製菓の調達方針およびCSR調達ガイドラインを理解いただき、アース製菓とともにその内容を実践させていくため、次の活動を進めています。

お取引先様自身のCSR取り組み状況の再認識と継続的な向上のために、CSRセルフ・アセスメント質問表への回答を依頼しています。この活動は2017年より実施しており、現在では、お取引先様203社中187社の原材料メーカー・生産委託先から回答を得ています。

これらのご協力をいただいたCSRセルフ・アセスメント質問表の回答・集計結果をもとに、個別面談などでお取引先様と結果を共有し、特に品質・安全性の改善をすすめていかなければならないと考えています。今後も新規のお取引先様へ実施するとともに、この活動を継続していきます。

また、当社内においてのお取引先様への評価を調査しました。この分析結果をもとに、CSRセルフ・アセスメント質問表の回答・集計結果と合わせ、お取引いただくお取引先様と、調達方針に沿ったCSR調達ガイドラインの徹底と見直すべき課題を話し合っています。

#### CSRセルフ・アセスメント質問表 集計結果

項目	得点率分布				
	A(100~80点)	B(79~60点)	C(59~40点)	D(39~20点)	E(19~0点)
コーポレートガバナンス	55%	21%	11%	12%	1%
人権	43%	23%	14%	20%	0%
労働	66%	20%	9%	5%	0%
環境	62%	18%	8%	12%	0%
公正な企業活動	58%	20%	14%	8%	0%
品質・安全性	78%	12%	7%	3%	0%
情報セキュリティ	64%	24%	7%	5%	0%
サプライチェーン	40%	27%	14%	19%	0%
地域社会	56%	21%	11%	12%	0%

## 人権への配慮(ダイバーシティとインクルージョン)

アース製菓では「アースグループグローバル行動基準」において、人権侵害の防止、多様性(個性)の受容と自主性の発揮を規定し、アースグループの全役職員が、生活・習慣・文化・法律・規制などが違う国々において事業活動を行う上で守らなくてはならないルールと考えています。

### ● ダイバーシティの推進

「人がすべて」という社員共通の価値観のもと、働く仲間の人権と多様性、個人の持つ能力や経験を尊重し、お互いを認め合い、助け合い、鍛え合っていく、働きがいのある職場づくりを推進しています。多様性には、出身地、文化、年齢、経験、好み、性的指向、性自認などの違いのほか、それぞれのライフステージの違いも含んだものと捉えています。

### ● 障がい者雇用の推進

工場、研究所などのバリアフリー化および障がいのある人が使用できる機器を導入し、誰もが働きやすい職場環境をつくることにより、得意な分野において能力を最大限に発揮できるようにしています。赤穂市に所在する坂越工場・赤穂工場では、地元の障がい者施設へ製造業務の一部を委託する「施設外就労」を実施し、障がいのある方たちの「働きたい」を支援しています。また、就労場所の少ない地域に雇用機会を創設するという地方再生の観点から宮崎に農園を借り、そこで障がいのある方に働く場所を提供しています。なお、アース製菓における障がい者雇用率は2.54%と法定雇用率を遵守しています。



農園での作業風景

### ● 女性社員のさらなる活躍に向けた推進

アース製菓の社員のうち約4割が女性社員です。ライフステージが変化しても、意欲高く働き続けられるような環境整備に取り組んでいます。

女性活躍推進の数値目標：管理職相当に占める女性の割合を、2023年中までに8%以上、2025年に10%以上にする

#### 女性管理職比率

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
管理職相当の女性人数	13名	14名	15名	16名	19名	21名
女性比率	4.9%	5.4%	4.9%	5.3%	6.4%	7.1%

### ● 仕事と育児の両立支援

第5回行動計画(2018年4月1日から2020年12月31日)の取り組みが認められ、2021年5月14日付で、厚生労働省東京労働局より3度目の「くるみん認定」を受けました。「くるみん認定」は、次世代育成支援対策推進法に基づき「一般事業主行動計画」を策定・達成し、かつ一定の基準を満たした企業が「子育てサポート企業」として厚生労働大臣から認定を受けるものです。



### ● 仕事と介護の両立支援

アース製菓では、介護理由での離職を防ぐために、2019年に休職期間を366日へ拡大し、休職中の社会保険料を会社負担へと変更。介護理由で利用できる積立有給休暇や、ジョブリターン制度を新設、2020年には休職中の所得補償のための団体保険に加入し、介護のための制度をより一層充実させました。厚生労働省の「両立支援のひろば」に仕事と介護の両立に関する取り組みを登録し、「トモニ」使用が認められています。



### ● 3月8日は国際女性デー

アース製菓は2019年より国際女性デーを日本で啓発する「HAPPY WOMAN」の「すべての人が個性と能力を発揮でき、豊かで幸せな人生を送れる社会を実現する」という活動理念に共感し、「HAPPY YELLOW® キャンペーン」活動に参加しています。

国際女性デーのイメージカラーのイエローをテーマカラーとしたSNSでの啓発キャンペーンや「国際女性デー | HAPPY WOMAN AWARD 2021 for SDGs」表彰式に、女性がいきいきと輝くための商品として、「ふぐコラ」、「ラ・エストジェンヌ」の黄金カラーの製品を提供しました。



提供した商品



## 社外との協働

### ● 「MA-T」の社会実装に向けて WELCO Labへの参画

アース製薬は、2020年10月、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社が運営する国際保健・グローバルヘルス領域の課題解決を目指す日本企業のためのイニシアチブ「WELCO Lab for Global Health」に発足と同時に参画し、地球規模の社会課題解決へ向け、世界を変革するアクションを加速させています。

当社の目指す未来は、思いを共にする企業・団体とMA-T技術を応用し、感染症予防のための新たなソリューションを2030年までに展開することです。日本のみならず、東南アジアやアフリカを対象に、ウイルス、微生物、多剤耐性菌などの感染拡大を抑制するため、国連や公的機関への調達事業を展開し、安全で簡便なソリューションを提供することで、低・中所得国での社会実装を目指します。現在、世界の課題となっている温暖化に対する対策としての高分子・低分子・エネルギーの分野においても、MA-T活用可能性を拡大します。

当社だけでは地球に貢献できることは限定的であるため、日本MA-T工業会の会員企業様をはじめとする幅広い企業・研究機関・各種団体と連携し、地球との共生を実現していきます。



MA-Tの活用可能性を拡大

### ● 第62次南極地域観測隊の健康と安心を支援

アース製薬は、南極の気象や大気、雪氷、地殻変動、生物などの観測を行う第62次南極地域観測隊の健康と安心を支援するため、「モンダミン プレミアムケア 1080mL」、「natuvo ファブリックケアミスト 280mL」、「natuvo ファブリックケアミスト つめかえ 250mL」を、越冬隊員31名に1年分寄贈しました。

南極地域観測隊は人員・資材共に限られた厳しい環境下で活動するため、隊員の健康維持は最重要事項です。とりわけ歯科医の帯同が無く、南極では、本格的な歯の治療が困難な状況であるため、「モンダミン」シリーズを通じて洗口液市場をけん引してきた当社から、お口のさまざまなトラブルを防ぐ「モンダミン プレミアムケア 1080mL」を寄贈しました。

南極には低温や極夜といった特殊な環境要因があり、隊員はさまざまなストレスに晒されています。毎日の活動が天然成分の香りに包まれて気持ちの良い時間となるように、またお肌に触れる布製品を優しくケアするために、衣類やソファ・カーペットなどの布製品の消臭・芳香ができる衣類・布製品用ミスト「natuvo ファブリックケアミスト 280mL」と、ごみ削減の観点からつめかえ用品「natuvo ファブリックケアミスト つめかえ 250mL」を寄贈しました。



写真提供：国立極地研究所

### ● ジャパン・プラットフォームとの災害時の協働

アース製薬は、2019年より紛争や災害時の緊急人道支援を行うNGO組織であるジャパン・プラットフォーム (JPF) が被災地等で実施する緊急支援活動に協賛し、支援体制の構築等に貢献しています。

JPFに加盟するNGO/NPOや地方自治体から寄せられる要請の中から、令和元年台風15号・19号や令和2年7月豪雨の被災地、新型コロナウイルス感染症による困窮世帯を対象とした緊急支援活動を行いました。

また、沖縄県那覇市では、同時発生した台風被害と新型コロナウイルス感染症拡大によって困窮した子どもの居場所である母子生活支援センターなど社会福祉施設にて活用いただくため、虫ケア用品、口腔衛生用品など8,000個を那覇市社会福祉協議会へ寄贈しました。

特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム <https://www.japanplatform.org/>



那覇市社協へ製品を提供した時の様子



## NGO/NPOとの協働

### ● ベトナムでのデング熱抑制に向けた取り組み

World Mosquito Program (WMP) は、世界中の人々を蚊媒介感染症から守るためにオーストラリアのモナッシュ大学の研究者らによって設立された非営利型イニシアチブです。WMPは、ボルバキアという細菌を使用して、デング熱、ジカ熱、チクングニア熱、黄熱病などの蚊媒介感染症の感染者数を減らす活動を行っています。アース製薬は、WMPによるベトナム(ミンズオン省トゥザウモット市)でのデング熱防圧プログラムを2021年から支援しています。アース製薬とWMPは、同じ目標を共有し、SDGsの達成に向けて協働します。

The World Mosquito Program  
<https://www.worldmosquitoprogram.org/en/work/collaboration/partners-supporters>



WMPとの協働でSDGs達成へ

### ● 使用済み切手回収運動

SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」の領域で活動を行っている「シェア」の活動を支援するべく、アース製薬では日々届く郵便物の、使用済み切手を回収しています。集まった切手は、「シェア」を通じてコレクターに販売され、その資金はプライマリー・ヘルス・ケアを尊重し、長期的な観点に基づいた保健医療活動へ、アジアでの活動費に当てられます。

<https://share.or.jp/>



回収した切手

## アース製薬が注力する教育CSR

### 研究部の取り組み

企業・団体によるCSR活動が重要視される中、教育に関するCSRへの関心が高まっており、教育現場への講師派遣(出前授業)やイベントの開催、教材の開発、サンプルの提供、施設見学、職場体験プログラムなど、企業が社会の一員として教育活動に参加することを「教育CSR」と呼んでいます。

アース製薬では、社会貢献活動としてのさまざまな分野での取り組みは当然ですが、教育CSRによって子どもや地域住民が衛生害虫



福原市昆虫館での公演の様子

に対する正しい知識を身に付けることで虫媒介感染症から身を守り、感染拡大を防ぐことが可能だと考えています。また、アース製薬・研究部で飼育している100種類以上の昆虫類を研究機関や高校等の研究および教育プログラムに役立てていただくことは、科学の発展や人財育成に役立つと認識しています。

アース製薬は、教育CSRの一環として大学や高校等に飼育昆虫を譲渡しています。2020年は大学17件、高校19

件、昆虫館および展示7件、病院他7件の計50施設に対して、クロゴキブリやチャバネゴキブリ、イエバエ、ヒトスジシマカなどの衛生害虫を中心に多数の飼育昆虫を提供しました。これらの昆虫は、研究や実験、授業、展示、写真撮影など、さまざまな用途に使用されました。

また、2020年はコロナ禍のためオンラインによる昆虫飼育施設の見学を行い、蚊やゴキブリ等衛生害虫に関する知識を深めていただきました。その他にも津山中央病院や福原市昆虫館で講演会を行ったり、「キモだめし展」や「G20 福原サミット2020 ~集まる世界の代表ゴキブリ~」等のイベントにも協力しました。



イベント時の展示



「虫」の解説とアース製品紹介

## 地域との共生

### ● エコキャップ活動の推進

当社は2030年の未来を見据え、国際社会の一員として、エコキャップ運動を通じて、国連の持続可能な開発目標、SDGsに積極的に参画し、コミットメントしていくエコキャップ推進協会の理念に賛同し、本社、営業拠点、研究所、国内工場において社員やお客様の利用する自販機の横や各オフィスの給湯室でペットボトルキャップを分別し回収、推進協会へ送付しております。2021年4月の累計では、参加した11拠点より909.2kgのペットボトルキャップを送付しており、一般廃棄した場合と比較し、CO<sub>2</sub>排出量を2,873.7kgを削減できた換算値となります。

当初この活動はリサイクルの促進、CO<sub>2</sub>の削減、売却益で発展途上国の医療支援の3つの目的でしたが、リサイクルの過程で雇用創出ができることがわかり、現在はこの3つの目的に加えて、障がい者・高齢者雇用促進などの4つの目的になりました。

これからも、活動を通じてSDGsへの想いを共有してまいります。



小さなキャップが社会課題の解決につながる

### ● 地域団体のスポーツ活動への協力

赤穂近郊で地域スポーツ団体への協力は「ASハリマアルビオン(女子プロサッカー)」「関西福祉大学(女子バレーボール部)」とのスポンサー契約を締結しています。

現在はサッカー、バレーボールなどの団体が主催して実施している幼児から小学生などへのスポーツ教室を通じてアース製薬より「小さいころからのお口ケア」に焦点を当て、参加していただく皆様への健康増進活動の一環と位置付けた活動を展開しています。こうした活動を通じて地域住民の皆様の健康が増進できるように、アース製薬の商品を用いて実施することが、企業の強みと考えています。



参加した子どもたちと一緒にモンダミンキッズ体操をする様子



ASハリマアルビオンイベント

虫ケアステーションも出展

### ● アース製薬と地方自治体との事業提携

アース製薬は、2030年SDGsの達成に向けて、自治体との連携を推進しています。2020年度は、東京都千代田区、東京都文京区、兵庫県赤穂市と包括連携協定を締結しました。また、2021年度は都道府県では初となる熊本県および徳島県と包括連携協定を結びました。2025年までに、都道府県、政令指定都市、東京23区を中心に90の自治体と社会課題の解決に取り組み、地域の人々と地域社会の持続的で健全な発展に寄与します。

アース製薬が考える主な取り組みは下記の通りです。

1. 安全安心で健康な暮らしに関すること
2. 教育、文化およびスポーツ振興に関すること
3. 災害時における被災者支援に関すること
4. 自治体と協議し、必要と認めること



熊本県との協定締結の様子



徳島県との協定締結の様子

### ● 赤穂市との包括連携協定の締結

赤穂市に2つの工場を持つアース製薬は赤穂市と包括連携協定を締結しています。

連携内容は「安全安心で健康な暮らし」「教育、文化およびスポーツの振興」「産業振興、雇用創出」「災害時における相互協力」「その他、両者が協議して必要と認めること」の5つの項目であり、アース製薬と赤穂市の互いの強みを活かして協力して地域が抱えるさまざまな課題に取り組み、地域の安全安心で健康な暮らしの実現を目指すこととしています。

今までも相互協力を行ってききましたが、より一層、民間での連携を充実させて、赤穂市の地域発展のために寄与していきます。



協定締結の様子

### ● 徳島県との植樹事業、協定締結

2019年に徳島県と「とくしま協働の森づくり事業」について協定を締結し、締結後はアース製薬からも毎年、植樹作業に参加しています。植樹作業は官公民による協同実施であり、植樹作業に参加することで地域住民や他企業ともさまざまなコミュニケーションが取れる場となっています。こうした自然環境を持続させる取り組みに参加することで、参加する社員が自然の大切さを改めて考える機会だけではなく、社内において社員へ啓蒙することで活動への理解を含め、当社としては継続した取り組み活動を実施していきます。



植樹、作業現場



「とくしま協働の森づくり事業」の報告書より

### ● アース・モンダミンカップ

コロナ禍でさまざまなイベントやプロスポーツ大会が無観客での開催や中止となる中、感染症対策に細心の注意を払い、スポーツの力で日本を元気にしたいという思いのもと有観客で開催した日本女子プロゴルフツアー「アース・モンダミンカップ」。2012年の初開催から数えて今年で10周年を迎え、メモリアルイヤーにふさわしい大会となりました。

アース製薬は、ゴルフ界、スポーツ界の発展のため、また社会貢献のために、今後もより良い大会の実現を目指し、「記憶に残る、心に残る、歴史に残る」大会を開催していきます。



大会会長 大塚達也 (アース製薬取締役会長) と優勝した菊地絵理香選手



今年もカメラアヒルズカントリークラブ(千葉)で開催

# Governance

ガバナンス

## 信頼を得るために

株主・投資家、社員をはじめ、あらゆるステークホルダーから信頼され、持続可能な経営を推進するために、透明性を持ったガバナンス、リスクマネジメントを行います。



### コーポレートガバナンス

#### ● 基本的な考え方

アース製薬は、経営理念「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」に基づき、お客様にとって価値ある製品・サービスの提供によって市場の創造・活性化を図るため、迅速な経営の意思決定、業務執行の監視・監督、コンプライアンスの徹底、適時・適切な情報開示などを行い、各ステークホルダーから価値ある企業として信頼を得ることに努めています。

#### 取締役会の実効性の向上に関する取り組み

経営環境の変化に機動的に対応し、迅速な意思決定と経営における役割と責任の明確化を図るため、取締役の定員数を10名以下（現在は9名）、取締役の任期を1年としているほか、執行役員制度を導入しています。また、監視・監督体制における多様性確保に向けて、外国籍の社外取締役および女性の社外取締役を選任しています。

年に一度実施する取締役および監査役による取締役会の実効性評価では、さらなる実効性の向上に向けて課題抽出および解決に取り組んでいます。評価の概要については、ウェブサイトにて公開しています。

こうした一連の取り組みにより、コーポレートガバナンスの充実を図っています。なお、当社はコーポレートガバナンス・ガイドライン\*1を制定し、その内容をウェブサイトにて公開しています。

\*1 コーポレートガバナンス・ガイドライン：  
<https://corp.earth.jp/jp/company/governance/pdf/guideline.pdf>

#### ● 業務の適正を確保する仕組みの強化

アース製薬では、会社法および会社法施行規則に基づき、当社グループの業務の適正を確保するための体制を整備し、その基本方針\*2をウェブサイトにて公開しています。

また、金融商品取引法に準拠した「内部統制報告制度（J-SOX）」に対応するため、内部統制推進委員会を組織

ことの自発的な行動です。この観点でそれぞれについてお話ししたいと思います。アース製薬の社外取締役は、経営会議（役員会）の前に集まって議論するなど、役員会が効率的に進行し、かつ実効性を伴うものとなるために、それぞれの専門知識や経験を活かしています。商品の開発会議や製造戦略会議などへの参加も社外取締役それぞれの持つ能力を活用している例です。いくつかの企業の経営に携わってきましたがこれは珍しいと思います。役員会自体は、投資案件も、その投資で得ようとしているものの現時点での価値（NPV＝正味現在価値）という指標をもって検討され、過去の投資案件についても評価・反省などきちんと振り返りを

行っています。会議で役員全員が黙っていることはまずありません。反対意見もきちんと表明できています。活発な議論が行われる経営会議、役員会といえると思います。私の立場でアース製薬のCSRについてお話しするならば、まず必要なのは長期的な大きなビジョン・目標を掲げることではないかと思っています。それをわかりやすい言葉で、伝わりやすい媒体で伝えること。そして第三者に客観的に評価してもらうこと。これはグローバルな企業には必要なことです。さらに、全従業員が目的を理解し、参加する、つまり自分事化してビジョンに向かっていくプログラムです。この実現がアース製薬のCSRにおける重要なポイントだと考えます。



#### Message

社外取締役  
メッセージ

社外取締役  
ハロルド・  
ジョージ・メイ

今回、アース製薬の社外取締役として、コメントするにあたり、明確にしておきたい点があります。それは、ガバナンスとCSRの目的は違うものだという事です。ガバナンスは、企業経営の監視、株主利益の確保のためにあります。これをニュートラルな立場で見て、意見していくのが社外取締役の大きな役割です。一方CSRは、ガバナンスを含め、企業が社会のために良いことをやっているという

し運営しています。

内部統制推進委員会では、評価対象とする業務プロセスおよび範囲を選定し、当プロセスを分析した上で財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別しており、その要点についての整備および運用状況を評価することで、内部統制の有効性に関する評価を行っています。

### リスクマネジメント

#### ● 危機管理の取り組み

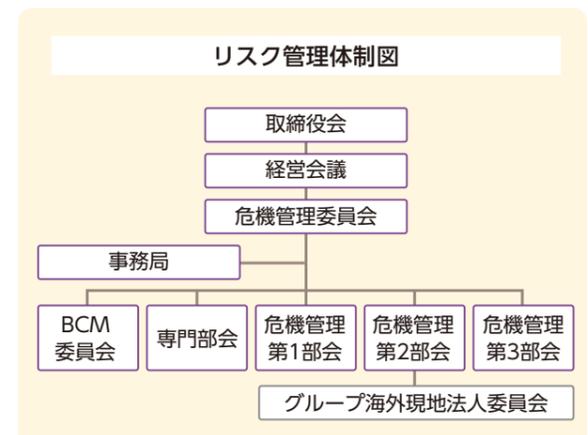
アース製薬は、国内グループ会社も参加した危機管理委員会を年3回開催し、経営危機につながるリスクを未然に防止するための活動をグループ全体で行っています。

また、当社では「危機管理マニュアル」[BCP\*1マニュアル]を策定し、社員への危機意識の浸透を促しています。

現在は策定した事業継続計画（BCP）を機能させるためのマネジメント（BCM\*2）に注力しています。2018年には、内閣官房国土強靱化推進室が策定した「国土強靱化貢献団体の認証に関するガイドライン」に基づく、レジリエンス認証を取得し、2020年に更新しました。この認証をもとに、本社や研究所、工場などで災害発生時の対策に取り組んでいます。

新型コロナウイルスの流行を受け、全社員テレワーク導入と並行し、体温測定や体調管理を行い、出社社員にはマスク装着を義務づけました。また、社内の環境消毒をBCP対策の一環として実施しました。主に衛生委員と出社した社員が、環境衛生除菌消臭剤[BACT-1O<sub>2</sub>(バクト)]を使用してドアノブやコピー機、オフィス内の共有スペースの消毒を行いました。

\*1 BCP：Business Continuity Plan  
\*2 BCM：Business Continuity Management



2020年は評価の結果、当社の財務報告に関わる内部統制は有効であると判断し、2021年3月に有価証券報告書とともに内部統制報告書を内閣総理大臣に提出しました。

なお、内部統制システムの整備に当たっては、関係法令の制定・改訂の動向にも対応し、継続的な改善を行っています。

\*2 内部統制システムの基本方針：  
[https://corp.earth.jp/jp/company/governance/pdf/ics\\_policy.pdf](https://corp.earth.jp/jp/company/governance/pdf/ics_policy.pdf)

#### 危機管理基本方針

アース製薬並びにアース製薬社員は、さまざまな経営危機事象発生に伴う「社員の安全」「社会からの信用失墜」「経済的損失」が、経営に重大な支障をきたす可能性を十分に認識し、経営危機事象を未然に防止するために、組織的・体系的な対策を実践します。

また、万が一危機が現実化してしまった場合でも、被害を最小限に留め、当事者・関係者が迅速に判断し行動できるようにするための原則・行動規範として「危機管理基本規程」を明確化・共有化して、対策をここに講じます。

#### 危機管理行動指針

- ①人命の安全確保を最優先します。
- ②企業資産の保全を図ります。
- ③ステークホルダーへの損害を最小限に留め、なおかつ社会的信用を守って企業を存続させるため、事業継続マネジメントを実行します。

#### ● 情報セキュリティの取り組み

アース製薬は、情報システム部にてISMS統括管理を実施し、「情報セキュリティ基本方針」を制定、情報セキュリティの重要性を周知しています。また、社員に対しては情報漏えいなどの事故につながるリスクを防止するために情報セキュリティ教育を定期的実施しています。毎年、情報セキュリティ管理者、担当者の約100名のメンバーとともに各部署にて研修を開催、個人アンケートと情報資産台帳よりリスクアセスメントを実施しています。また、第三者の審査を受けてISO/IEC27001（情報セキュリティマネジメントシステム）の認証を継続取得しています。ISMS委員会では、年間計画の策定、マニュアルの改訂、第三者外部監査機関の審査後評価をもとに改善策を話し合い、新人研修にて、ISMSやスマートデバイスのマニュアルをもとに情報セキュリティの注意点に関する教育を継続的に実施しています。



## コンプライアンス

### ● コンプライアンス体制

アース製薬は、高い倫理観を持ち、法令などを遵守するため、当社における行動指針を冊子にまとめて解説した「アース製薬行動指針及び行動指針解説書」を役員・社員（契約社員・派遣社員・パートタイム社員を含む）全員に対して配付するとともに、社内イントラネットに掲載して会社が重きを置いていることを周知しています。

また、法務部門を担当する取締役を委員長として、組織横断的なコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス上の課題や情報を共有し、全社的に活動を推進しています。2020年度は委員会を4度開催しました。コンプライアンス委員会では原則として毎月2回、第一法規出版発行のコンプライアンス関連の情報誌「こんぷらサポート便」を社内イントラネットに掲載し、コンプライアンス意識の向上に努めています。

コンプライアンス委員会では、「コンプライアンス意識調査アンケート」の実施などにより、社内でのコンプライアンス関連情報の適時適切な集約に努めており、社内研修の受講部署選定、研修内容の立案、実施時期の判断にそれら集約された情報を反映させ、研修の実効性を高めています。

### ● アース製薬行動指針及び行動指針解説書

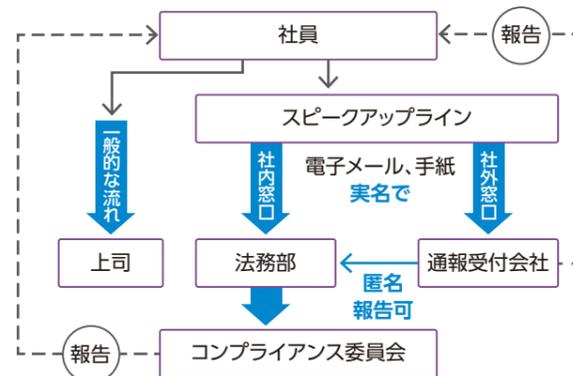
アース製薬行動指針は、アース製薬の役員・社員一人ひとりが、企業倫理に則った公正な判断をするための尺度を示したものであり、それを実践するためのものです。お客様、社会、市場、株主、働く仲間を5つのテーマとし、それぞれ、「お客様」に対しては、良質で役に立つ製品・サービスを提供することで、常に信頼されるブランドであり続けること、「社会」に対しては、ルールを遵守し、常に公正で誠意ある行動を心がけること、「市場」に対しては、自由な競争を妨げることなく、良質な製品を提供すること、「株主」に対しては正確な情報を迅速に開示するとともに、会社の資産を不正な目的に使用しないこと、「働く仲間」に対してはコミュニケーションを大事にし、全員参画で社会とともに発展し成長することを定めています。また、行動指針解説書においては、行動指針を実践するための遵守すべき法令や事例を記載しています。行動指針を受け取った時には、役員・社員は誓約書に署名し、コンプライアンス委員会に提出します。なお、本指針の改廃は取締役会の承認を得るものとしています。

海外子会社については、アース製薬行動指針をもとに作成された「アースグループグローバル行動指針」を通して、現地子会社の自律性や現地の法令に配慮しながら、グループの普遍的経営理念や行動規範の浸透を図っています。

### ● 内部通報制度概要

アース製薬は、内部通報窓口として「スピークアップライン」を社内と社外の2カ所に設置し、業務に関わる問い合わせやルール違反の恐れがあることをコンプライアンス委員会に通報できる体制をとっています。社外窓口への通報は匿名でも可能です。退職後1年以内の方も利用できます。また、問い合わせや報告をした人が、社内で不利益な処分を受けることがないように保護します。この保護は継続的に実施し、コンプライアンス委員会が監視します。2020年度の通報件数は3件ありました。

#### スピークアップライン体制



### ● 外部（お取引先様等）通報窓口

ガバナンス機能をさらに強化するため、お取引先様の方々から法令および企業倫理（アース製薬行動指針、グローバル行動指針）遵守に関する問い合わせ・通報を、お寄せいただく受付窓口「お取引先専用ホットライン」を設置しています。



内部通報カード

## 第三者意見



立教大学経営学部教授  
高岡 美佳氏

### 評価できること

全体を通して、「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」というアース製薬の経営理念が明確に反映された良いレポートだと思います。本レポートは、アース製薬の多角的な活動を、社員のコメントや商品画像などを交えつつわかりやすく報告しており、CSRコミュニケーションの点からも優れた報告書となっています。

トップメッセージにあるように、アース製薬は昨年、これまでの「虫媒介性の感染症のプロ」から「感染症トータルケアカンパニー」へと事業基盤を拡げました。新型コロナウイルス感染症によって世界の人の暮らし方が一変して、解決すべき社会課題が増えたことがその背景にあります。アース製薬では現在、大学、研究機関、ベンチャー企業、自治体など異分野の持つ知見を組み合わせるオープンイノベーションに力を入れており、日本初の革新的な酸化制御技術「MA-T」の普及に取り組んでいます。これも世界規模で喫緊の課題となっている感染症対策に貢献することを目的としています。このような、本業を通じた社会課題の解決に向けてスピーディーに取り組むアース製薬の誠実な取り組み姿勢を、まず第一に高く評価したいと思います。

続いて今回のレポートで高く評価したいのは、「国連グローバル・コンパクト（UNGC）」に署名して、UNGCが提唱する4分野10原則への支持を表明したことです。これにともない、グループにおけるCSR推進体制を見直し、CSR推進事務局とCSRワーキンググループを「CSR/サステナビリティ推進室」へと組織変更しました。同時に、人権侵害の防止や多様性の受容などを明記した「アースグループグローバル行動指針」を新たにグループ外に開示し、人権デューデリジェンスに着手し始めたとうかがっています。いずれも素早い対応であり、アース製薬のCSRに

対する意識の高さを表していると考えます。この点を評価したいと考えます。アースグループの商品は既に海外とくにアジア圏で広く認知されており、海外売上は直近5カ年で約2倍へと急成長を遂げています。今後もアジアにおける感染症対策のリーディングカンパニーとして業界を牽引していただくと同時に、グローバルを意識したESG経営をさらに推し進めていただきたいと思います。

また、今年度も社員の働く環境の整備が進展しました。2020年に雇用保険からの介護休業給付が終了した後も介護休業補償特約が支払われるアース製薬独自の休職中の所得補償制度が導入されたことは記憶に新しいところですが、今回、「アース人財理念」と「アース人財マネジメント方針」が策定されたことで、社員を会社発展の原動力となる価値あるものとしてとらえていることを内外に明確に示しました。企業が持続的に成長するためにはイノベーションが不可欠であり、その原動力は人です。すでに高いレベルに達しているアース製薬の働き方に関する諸制度が今後も高いレベルで運用されることを期待します。

その他、この一年は海外との行き来もままならず国際社会への支援が滞ってしまった企業が多い中、WMP (World Mosquito Program) によるベトナムでのデング熱抑制プログラムのサポートを2021年から新たに開始するなど、海外NGO/NPOとの協働が進捗したことも注目すべきポイントです。総じて、この一年間におけるアース製薬のCSRは着実に進捗したと総括できるでしょう。

### 要望したいこと

現時点でアース製薬のCSRは一定のレベルに達していると思いますので、来年は、今年度の国連グローバル・コンパクトへの署名を契機に、CSR重要課題（マテリアリティ）の特定を検討してはいかがでしょうか。あらためて、重要課題の特定とKPIの設定を行うことで、アース製薬のCSRの一層の深化が見込めますし、本業に社会課題や環境問題の解決の要素をどのように組み込めば良いかが明確になります。もう一点は、現在、トップカンパニーにはTCFDもしくはそれに類似する枠組みへの対応が求められていますので、来年は、企業自身が直接的に排出した温室効果ガス（SCOPE1）や間接的に排出した温室効果ガス（SCOPE2）に加えて、バリューチェーン全体で排出した温室効果ガス（SCOPE3）について開示を検討していただくことを期待します。

# 会社概要、基本データ

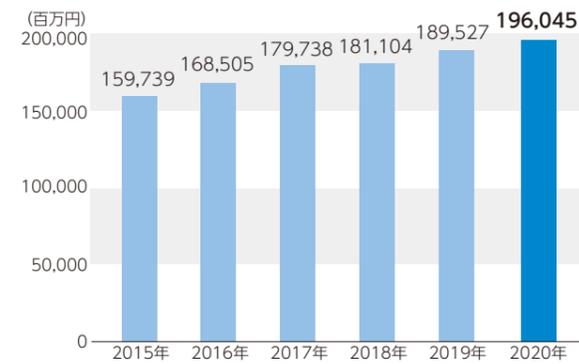
## 会社概要

**名称** アース製薬株式会社  
 東京証券取引所市場第一部  
**会社設立** 1925年(大正14年)8月26日  
**資本金** 98億2,937万円(2020年12月31日時点)  
**本社所在地** 〒101-0048  
 東京都千代田区神田司町二丁目12番地1  
**代表者** 代表取締役社長CEO 川端 克宜  
**事業内容** 医薬品、医薬部外品、医療用具、家庭用品などの製造販売並びに輸出入

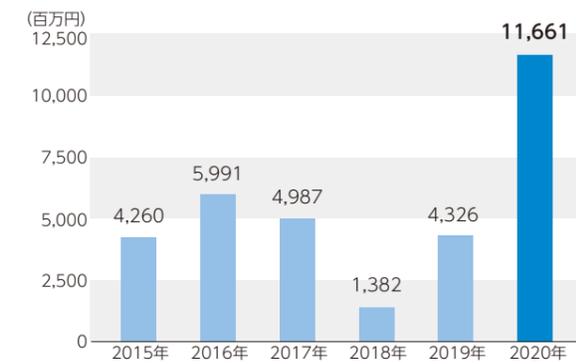


## 財務データ

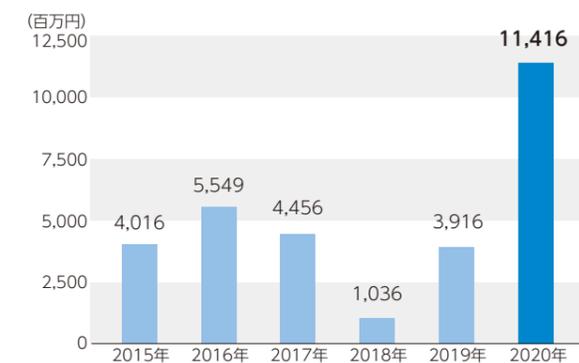
### ● 売上高(連結)



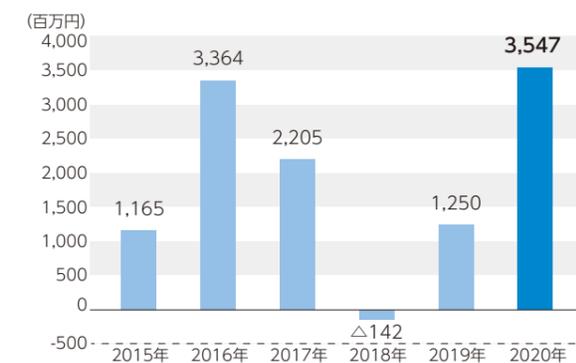
### ● 経常利益(連結)



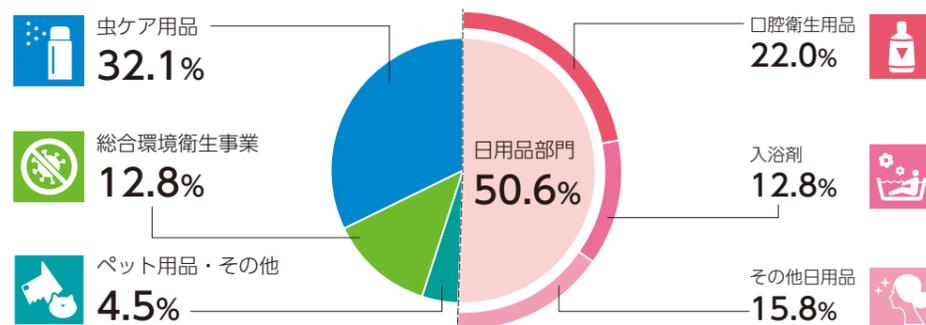
### ● 営業利益(連結)



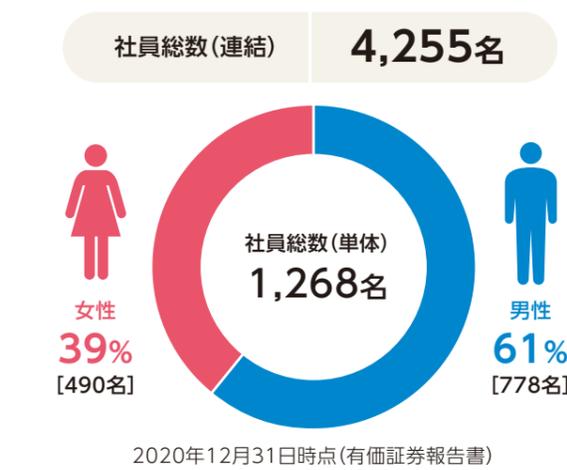
### ● 親会社株主に帰属する当期純利益(連結)



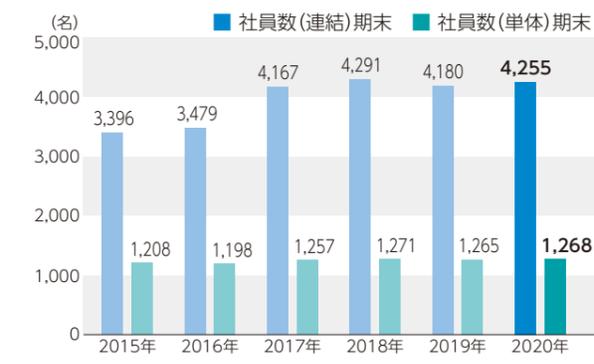
### ● セグメント別売上高構成(2020年)



## 非財務データ



### ● 社員数



### ● 初任給(単体) 2020年実績

大卒 **210,000円** / 修士 **230,000円**

## 編集方針

「CSR報告書2021」は、社員やお取引先様をはじめとするあらゆるステークホルダーの皆様に対して、アースグループの中長期的な価値創造についてより一層ご理解いただくことを目的とし、持続可能な地球環境への取り組みや事業に基づいた社会貢献活動など、企業価値創造に向けた戦略や計画、成果を報告しています。透明性と説明責任を果たしつつ、ステークホルダーの皆様にはアースグループのサステナビリティ活動をよりわかりやすくお伝えすることを目指しています。

本冊子には、アースグループの企業価値創造にとって重要度の高い情報が簡潔にまとめられていますが、未掲載の情報につきましてはウェブサイトをご高覧ください。

私たちは、これからもステークホルダーの皆様との対話を通じ、アースグループの未来を共に築いていきたいと考えていますので、皆様の率直なお意見をお聞かせいただければ幸いです。

アース製薬【環境・CSR】ウェブサイトのご案内  
<https://corp.earth.jp/jp/csr/index.html>



- 対象範囲**  
 アース製薬株式会社  
 (報告範囲はグループ全体ですが、標記のあるデータ以外はアース製薬単体です)
- 対象期間**  
 2020年1月1日~2020年12月31日  
 (一部の内容は2021年8月31日まで)
- 発行時期**  
 2021年10月
- 参考にしたガイドラインなど**  
 「GRIサステナビリティ・レポートニング・スタンダード(GRIスタンダード)」改定版  
 環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」  
 「Business Reporting on the SDGs: An Analysis of the Goals and Targets」  
 「Integrating the SDGs into Corporate Reporting: A Practical Guide」
- お問い合わせ先**  
 アース製薬株式会社 グループ経営統括本部  
 事業開発部 CSR/サステナビリティ推進室  
 TEL : 03-5207-7788  
 FAX : 03-5207-7484